岡崎市
中山間地域活性化計画

～オクオカ イノベーションプラン 2030～

令和４年３月

岡 崎 市

はじめに

本市の中山間地域は、本市全体の面積の約６割を占め、水源のかん養や自然災害の防止など重要な役割を担う地域であり、この地域の持続的発展は、本市全体の発展にとって必要不可欠です。

しかしながら、全国的に人口減少や少子・高齢化が進み、若者を中心に都市部への流出に歯止めがかからない状況が中山間地域において特に顕著であり、複数の要因が複雑に絡み合って生じているとともにその課題は多岐にわたっています。

平成 18 年１月１日に振興山村地域である旧額田町が合併し、額田地域は山村振興計画に基づいて振興を図ってきましたが、合併後の岡崎市は、中山間地域全体の振興・活性化を図る計画は策定していない状況でした。

そこで、中山間地域に住む人々の生活を維持するとともに、農地や森林が有する多面的・公益的機能を発揮させ、経済活動に軸を置いて、中山間地域の有する資源や魅力を活かして民間からの投資誘導を図り、行政が支援しながら地域住民が主体となって地域づくりを進めるなど、公民連携による持続的な施策を戦略的に取り組み、持続可能な魅力ある地域を作り上げることを目的として、中山間地域活性化計画を策定することとしました。

特に、新型コロナウイルス感染症とそれに伴う経済状況の悪化が市民生活に大きな影響を与えている一方で、豊かな自然環境の中での生活やアウトドア活動等への関心の高まり、テレワークの推進等に伴い、恵まれた自然、農地、森林を有する中山間地域への注目度が高まっています。それを契機として、中山間地域の価値を守り、活かし、分かち合い、都市部住民と繋がり、交流し、支え合うことにより、共生していける持続可能な地域とするための施策を展開していきます。

この計画は、３つの基本方針と 10 の重点事項からなり、多岐にわたる内容となっていますので、これらの施策を地域の皆様と一体となって着実に進め、「住み慣れた地域で暮らし続けるための仕組みづくり」を実現していきます。

おわりに、本計画の策定にあたり、ご尽力を頂きました各学区総代の皆様を始め、貴重なご意見をいただきました関係機関・団体、並びに市民の皆様に心から感謝申し上げます。

令和４年３月

目　次

序章 1
　１ 背景・課題 1
　２ 計画の位置づけ 2
　３ 計画期間 3
　４ 対象地域 3
第１章　地域の現状整理 6
　１　中山間地域についての意識調査 6
　２　各学区の現状把握 8
　　① 生平学区 8
　　② 秦梨学区 11
　　③ 常磐南学区 14
　　④ 常磐東学区 17
　　⑤ 常磐学区 20
　　⑥ 恵田学区 23
　　⑦ 奥殿学区 26
　　⑧ 豊富学区 29
　　⑨ 夏山学区 32
　　⑩ 宮崎学区 35
　　⑪ 形埜学区 38
　　⑫ 下山学区 41
第２章　将来展開 44
　１　基本理念と基本方針 45
　　①　基本理念 45
　　②　基本方針 47
　２　重点事項 50
　　基本方針Ⅰ　「くらし」の仕組みづくり 50
　　基本方針Ⅱ　「しごと」の仕組みづくり 60
　　基本方針Ⅲ　「交流」の仕組みづくり 65
　３ 地区別計画 68
　４　小さな拠点の形成 69
　　①　対象施設 70
　　②　施設の現状及び想定活用方法 71
　　③　今後の展開 79
　５　成果指標 80

序章

1 背景・課題

中山間地域は、農地・森林・河川など豊かな自然に恵まれており、農林水産物の生産の他、水源かん養、防災・減災、環境保全、レジャー・保養機能などの多面的・公益的機能を有しています。これらは、中山間地域のみならず、岡崎市全体に恵みをもたらしてくれている重要なものです。

しかし、若年層の都市部への転出が進むことにより、中山間地域の人口は全体的に減少傾向が続いており、少子・高齢化が進行することで、草刈り等の地域共同作業が困難になったり伝統芸能の継承が危惧されたりするなどの問題も発生してきており、地域コミュニティの弱体化が進んでいます。

また、急峻な土地など地理的に不利な条件や鳥獣害の多発などにより、農林業も不振が長引いており、担い手不足や耕作放棄地の増加も進んでいます。

このような地域の活力低下や産業の低迷は、本来地域が有している多面的・公益的機能の低下にもつながります。

一方で、田園回帰志向や新型コロナウイルス感染症の影響もあり、豊かな自然環境の中での生活やアウトドア活動等への関心の高まり、テレワークの推進等に伴い、恵まれた自然や農地を有する中山間地域への注目度が高まっています。これにより、地域を訪れる人が増加し、ＣＳＲ活動としての景観整備や耕作放棄地活用等の取組みも行われるようになってきています。また、SDGs やカーボンニュートラルへの取組みが広がることにより、中山間地域への関心はさらに高まるものと考えられます。

本計画の上位計画となる第７次岡崎市総合計画（計画期間：令和３年度～令和 12 年度）の基本的な方向性を示す総合政策指針においては、自然環境を誘客資源として楽しみながら恩恵を実感できるよう、保全を促進し、投資の誘導を図るとされており、分野別指針⑶「持続可能な循環型の都市づくり」に位置づけられています。

> 分野別指針⑶　持続可能な循環型の都市づくり
> 環境・経済・社会の課題を踏まえ、公民連携して複数課題の統合的な解決を図る地域循環共生圏の枠組みの中で、排出 CO_2の削減、生物の多様性確保、健全な水循環、森林資源や農地の保全・活用がなされる持続可能なまちを目指します。

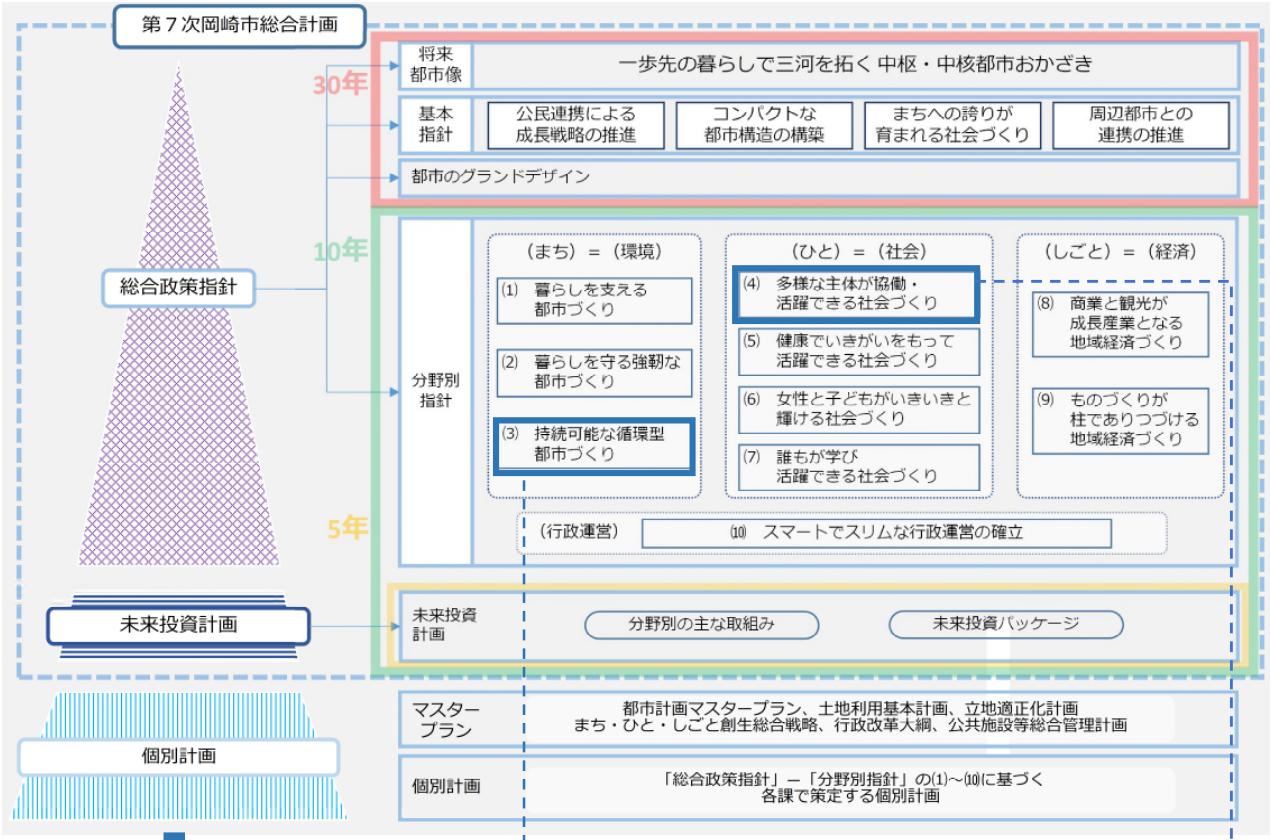
そして、地域社会のあり方については、分野別指針⑷「多様な主体が協働・活躍できる社会づくり」に示されています。

> 分野別指針⑷　多様な主体が協働・活躍できる社会づくり
> 人口構成変化や年代別人口偏在に起因する担い手不足に負けない町内会の持続的な活動を新技術導入などにより支援しつつ、多様な主体が協働・活躍できる地域共生社会の実現による安全安心なまちを目指します。

また、額田地域を対象として作成された山村振興計画（計画期間：平成 28 年度～令和７年度）においては、地域活性化の方針及び森林、農用地等の保全の方針として、特色ある農林水産物等の地域資源を活用した産業振興や、自然環境や景観を活かした交流施策の促進、山村における定住促進、農林地及び内水面漁場環境の保全等が定められています。

2 計画の位置づけ

本計画は、次の上位・関連計画との連携・役割分担の下で策定します。



中山間地域の活性化に関する個別計画

岡崎市中山間地域活性化計画

（オクオカ イノベーションプラン 2030）

【連携する計画】

山村振興計画
農業振興計画
岡崎農業振興地域整備計画
食育推進計画（地産地消促進計画）
地域公共交通計画
空き家等対策計画
農業支援施設・農村振興施設個別施設計画
森林整備ビジョン
地域農業ビジョン（JA）
環境基本計画
観光基本計画
住生活基本計画

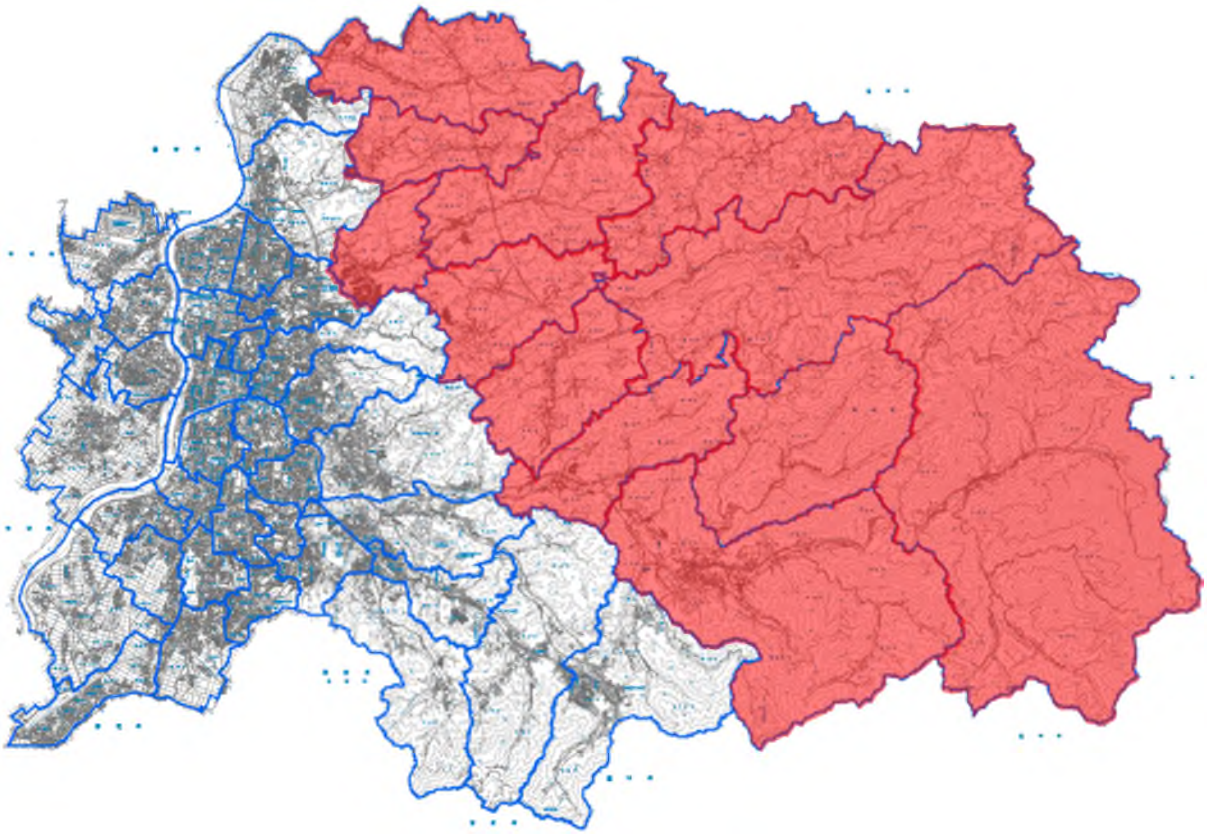
3 計画期間

計画期間は、2022 年度（令和４年度）～2030 年度（令和 12 年度）とします。

4 対象地域

本計画では、国の農業地域類型区分による中山間地域の他、都市的地域の中で林野率が高い等の地域も含めて検討し、生平学区、秦梨学区、常磐南学区、常磐東学区、常磐学区、恵田学区、奥殿学区、豊富学区、夏山学区、宮崎学区、形埜学区、下山学区の 12 学区（ただし市街化区域は除く）を対象地域とします。

■対象地域



■学区・町名等対応表（以下のうち、市街化区域は除く）

地域区分	中学校区	小学校区	町名	通学区域
大平地域	河合	生平	茅原沢町	全域
			生平町	
			蓬生町	
			古部町	
			切越町	
			秦梨町	字土橋
		秦梨	須淵町	全域
			岩戸町	
			才栗町	
			秦梨町	字土橋を除く。
中央地域	常磐	常磐南	岩中町	全域
			田口町	
			板田町	
			大井野町	
		常磐東	安戸町	全域
			蔵次町	
			大柳町	
			新居町	
			小丸町	
			米河内町	
		常磐	滝町	全域
			真伝町	字吉祥・字清水谷のうち通称滝団地
			箱柳町	字中立のうち通称滝団地
岩津	岩津	恵田	恵田町	全域
			丹坂町	
			駒立町	
			真福寺町	字落合・字女ケ谷のうち通称ライクタウン花園
	新香山	奥殿	奥殿町	全域
			渡通津町	
			日影町	
			川向町	
			宮石町	
			桑原町	字緑陽台、字大沢のうち通称奥山田を除く。

地域区分	中学校区	小学校区	町名	通学区域
額田	額田	豊富	樫山町	全域
			桜井寺町	
			下衣文町	
			牧平町	
			鹿勝川町	
			細光町	
			滝尻町	
			淡渕町	
			片寄町	
			鳥川町	
		夏山	夏山町	全域
		宮崎	石原町	全域
			宮崎町	
			明見町	
			中金町	
			東河原町	
			雨山町	
			大代町	
			木下町	
			千万町町	
		形埜	切山町	全域
			毛呂町	
			井沢町	
			桜形町	
			鍛埜町	
			南大須町	
			大高味町	
			小久田町	字岩下、字姥ケ懐、字柿平、字上笹ケ田、字清水、字仏供、字村上、字屋下、字湯ノ木、字下笹ケ田を除く。
		下山	保久町	全域
			冨尾町	
			外山町	
			一色町	
			中伊町	
			中伊西町	
			小久田町	字岩下、字姥ケ懐、字柿平、字上笹ケ田、字清水、字仏供、字村上、字屋下、字湯ノ木、字下笹ケ田

第１章　地域の現状整理

市民の中山間地域全般に対するイメージ等を整理するとともに、中山間地域内の 12 学区では立地条件や地域資源等が異なるため、学区ごとで現状についてまとめます。

１　中山間地域についての意識調査

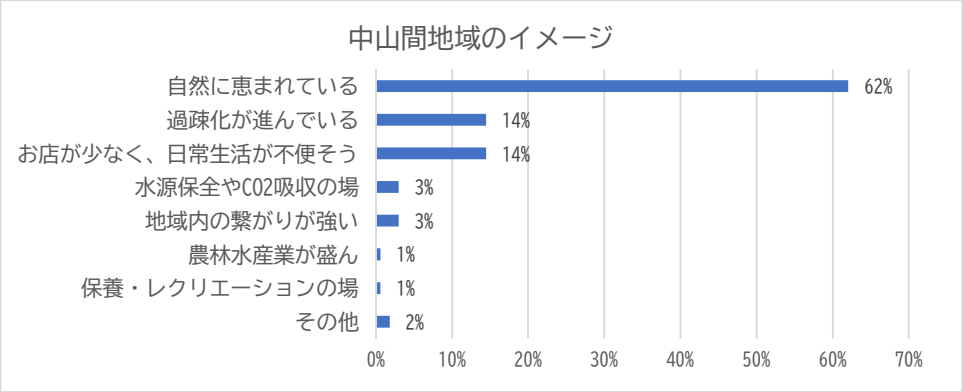
中山間地域に対するイメージや、市民が感じている中山間地域の魅力や課題を把握するために、ｅモニター制度を利用してアンケート調査を実施しました。

実施期間：令和３年５月 21 日（金）～令和３年５月 30 日（日）

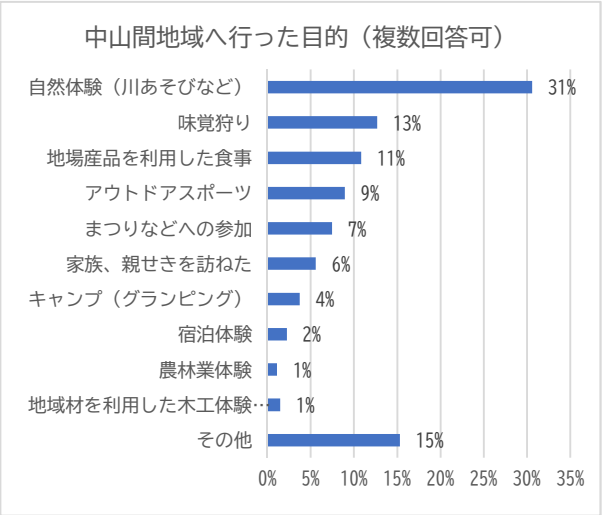
回答者数：166 名（登録者数 510 名・配信成功数 455 名）

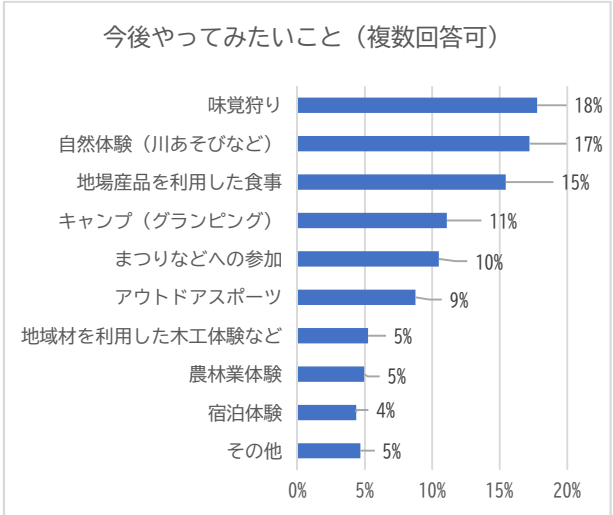
《結果》

中山間地域のイメージとしては「自然に恵まれている」が 62%と最も多く、水源・防災・減災・景観形成など、多面的機能を有している地域の自然環境が評価される一方、「過疎化が進んでいる」、「お店が少なく、日常生活が不便そう」というイメージも、それぞれ 14%の回答がありました。



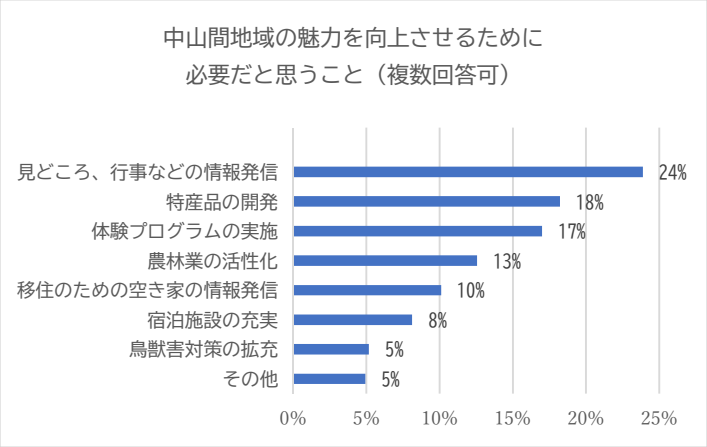
中山間地域に行ったことがあるかたの目的は、川あそびなどの「自然体験」が 31%、「味覚狩り」が 13%と多く、今後やってみたいこととしても、「味覚狩り」が 18%、「自然体験」が 17%、「地場産品を利用した食事」が 15%など、地域の自然や農林水産物を活かしたものの回答が多い結果となりました。

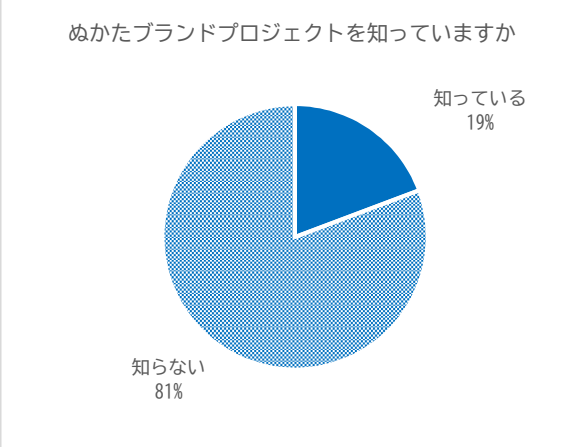




また、中山間地域の魅力を向上させるために必要だと思うこととしては、「特産品の開発」が18%、「体験プログラムの実施」が 17%といったように、自然や農林水産物を活かしたコンテンツの充実に関する意見も多くありましたが、「見どころ、行事などの情報発信」が 24%と最も多く、いかに効果的に地域の魅力を発信、認知していただくかが重要であると考えられます。

額田地域では、平成 29 年度に「岡崎市ぬかたブランド協議会」が設立され、地域資源を活かした商品開発・販売、「おかざきかき氷街道」や「おかざき鮎めし街道」などの取組みを進めていますが、ぬかたブランドプロジェクトを知っているという回答は 20%にとどまっており、商品やプログラム開発だけでなく、情報発信方法を検討する必要があることがわかります。



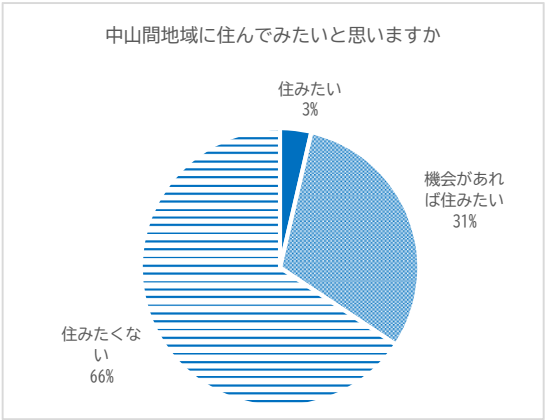


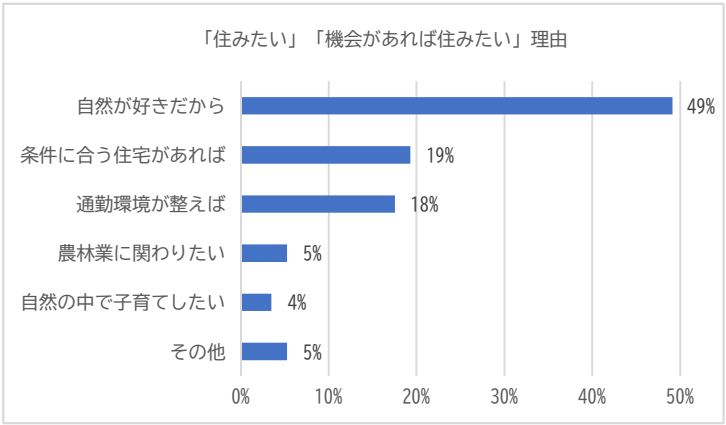
居住地としての評価は、「住みたくない」が 66%で、「住みたい」「機会があれば住みたい」の合計を上回る結果でした。

その理由としては、「お店が少なく、日常生活が不便そう」が 37%と最も多い回答でした。

一方、「住みたい」、「機会があれば住みたい」という理由としては、「自然が好きだから」が49%と最も多く、続いて「条件に合う住宅があれば」「通勤環境が整えば」という回答も 20%弱ありました。

中山間地域への移住・定住を検討する上で、住宅や仕事の確保が課題となることがわかります。仕事に関しては、テレワークやワーケーションなど、新たなライフスタイルが推進される中、今後、対応する施設整備を進めること等により、居住地として選択肢の一つになり得る可能性も考えられます。





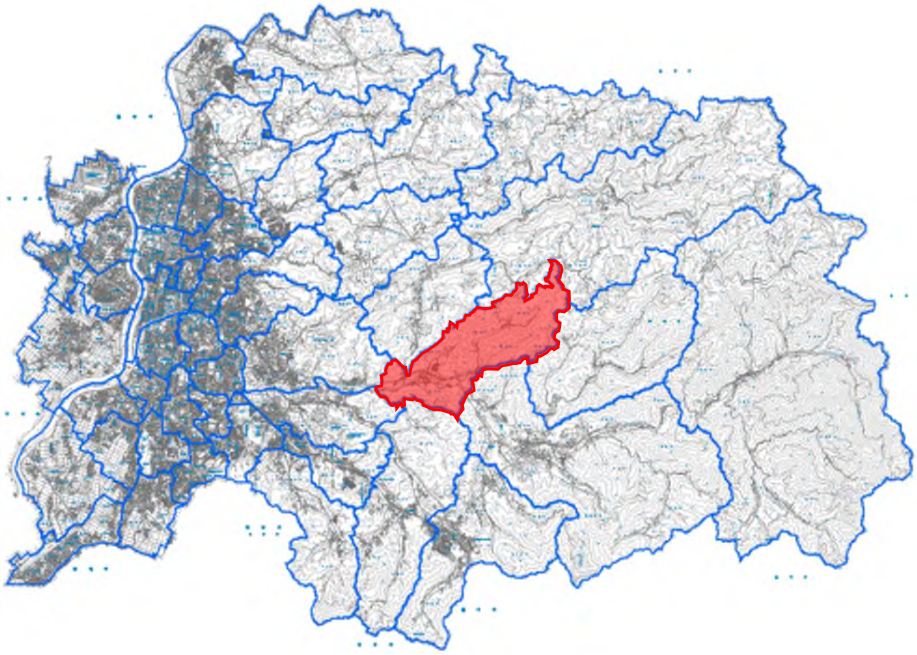
2　各学区の現状把握

資料等から各学区の現状をまとめます。

なお、地域の意見として、学区の長所・短所等について地元（総代・農業生産組合長等）へのアンケートも実施しました。（宮崎学区及び下山学区は全戸を対象）

① 生平学区

生平学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ　地域の概要・保有資源

地域	大平地域
中学校区	河合
位置・概要	岡崎市中心部から東へ約８㎞に位置し、地域面積 11.11km^2 のうち約９割を占める森林や、男川、乙川などの清流がある。河合地区は国指定天然記念物「岡崎ゲンジボタル発生地」となっており、６月にはホタルが飛翔し、年中を通して野鳥や野生動物を見られるなど、豊かな自然に恵まれている。茅原沢町・古部町・切越町・生平町・蓬生町の全域と、秦梨町の一部で構成される。平成になると過疎化が顕著にみられたが、平成９年には「ちせいの里」が造成され、平成 28 年には新東名高速道路のインターチェンジが近隣にでき、これからの発展が期待される。
伝統文化	・生平ふるさとカルタ　・地搗（ぢづ）き唄　・孝婦とら
地域行事・イベント	・三河富士登山大会 ・全校縦割り探鳥会
自然資源・観光資源	・ゲンジボタル　・生平八幡宮の大杉 ・蛍流の森の「石清水」　・切越の八面塔 ・三河富士　・切越の夫婦ヒノキ(市指定天然記念物)

主要施設	・生平小学校 ・河合中学校 ・生平学区市民ホーム ・生平学区こどもの家
産業・特産品・農産品	・米
名所・史跡・歴史資源	・生平八幡宮　・富士浅間神社　・茅原沢神明宮 ・須佐之男神社　・不退寺　・円跡寺 ・戦没者慰霊碑　・東泉寺　・熱田神社
地域団体・地域活動	・岡崎ゲンジボタル河合保存会 ・ちせいの里　ロックエンゼルの会 ・地搗（ぢづ）き唄保存会
市計画での方向性	・地域の西側では美合駅を中心に都市機能の集積や良好な居住環境づくりを進め、地域の東側では豊かな自然を保全するまちづくりを目指します。（都市計画マスタープランの地域別構想） ・イノシシ、シカ、サル、ハクビシンなどによる農林産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：生平学区）、岡崎市 HP

Ⅱ　地域意見

■学区アンケート結果分析(主な意見)

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・鮎の獲れる川がある。（天然鮎の遡上） ・ホタル保全活動を行っている。 ・ホタルが見られる。 ・里山の風景が残っている。 ・人のつながりが深くまとまっている。 ・市街地に近い。	・若者世代が定住しないため、人口減少、高齢化が進む。 ・担い手不足で、耕作放棄地が多く、森林も荒れてきている。 ・デジタル機器を活用するにも、高齢者にはハードルが高い。
外部環境	・米、魚、獣（イノシシ、シカ）を特産品として活用できるのでは。 ・田畑、林などを整備すれば、田舎暮らし体験に使えるのでは。 ・高速道路が近い（市外・県外へのアクセスも良い）。	・昔からの道のため、狭く危険。 ・市街地や高速道路のインターチェンジには近いが、自動車がないと移動が難しい。 ・近くに学校、店、病院がないため、通うのに不便である。 ・鳥獣害が多い。 ・法的に家の新築、増改築が難しい。

Ⅲ 人口推計

2015 年の本学区の人口は 1,398 人でしたが、推計では今後減少が続くとされており、**2045 年には本学区の人口は 1,039 人程度にまで減少**すると予測されています。

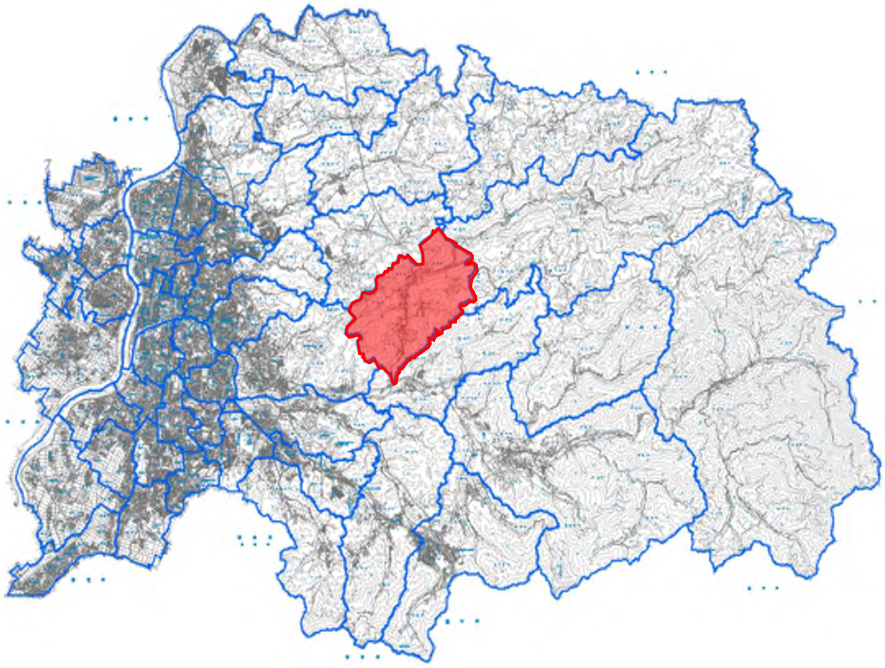
資料：岡崎市総合計画関連資料

生平の自然を象徴するゲンジボタルを引き継ぐ子供たち

地搗（ぢづ）き唄保存会

② 秦梨学区

秦梨学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ 地域の概要・保有資源

地域	秦梨地域
中学校区	河合
位置・概要	面積 10.28km^{2}の中山間地域ではあるが、新東名高速道路の岡崎東インターチェンジまで車で約 10 分、市内都市部まで車で約 15 分と便利な環境にある。地名に伝承される先人の足跡をはじめ、歴史ある野仏や神社仏閣、豊かな自然を物語る大木なども随所に見られる。平成 28 年に新東名高速道路も開通し、高くそびえる橋脚は新たなランドマークとなっている。
伝統文化	・ガラ紡工場　・権さの井　・荒川同楽　・秦梨ふるさとカルタ　・いぼあらい
地域行事・イベント	・学校ビオトープ作り　・学校田でのもち米作り ・新春のカルタ大会
自然資源・観光資源	・阿弥陀渕　・道根往還　・三ツ子石　・鏡岩　・道祖神　・自在龍神 ・才栗のイチイガシ／白髭神社（岡崎市指定天然記念物） ・才栗のムクノキ（岡崎市指定天然記念物）
主要施設	・秦梨小学校　・老人ホームかわいの里、喜楽の里 ・河合中学校　・岡崎市少年自然の家 ・秦梨学区市民ホーム ・秦梨学区こどもの家
産業・特産品・農産品	・米 ・反毛業　・フェルト工業
名所・史跡・	・発電所跡　・須佐之男神社　・鏡山神社　・正蔵寺

歴史資源	・白髭神社　・神明社　・石清水の弘法さん　・友久八幡宮 ・秦梨城址　・紋次郎地蔵 ・素盞嗚神社　・福正寺　・聖洞寺　・東照寺
地域団体・地域活動	・里山レスキュー活動　・山仕事の会 ・ゲンジボタル保護、育成活動　・岡崎ゲンジボタル河合保存会 ・お城まつり　・社教委員会　・福祉委員会　・長命クラブ
市計画での方向性	・イノシシ、シカ、サル、ハクビシンなどによる農林産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：秦梨地区）、岡崎市 HP

Ⅱ 地域意見

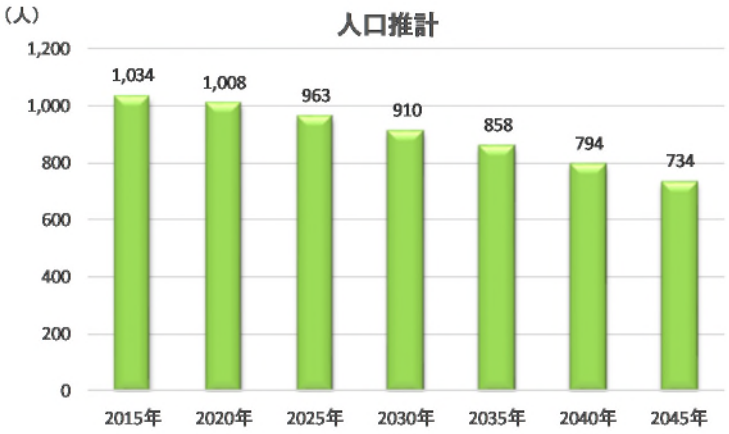
■学区アンケート結果(主な意見)

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・ホタルも生息する豊かな自然がある。 ・町内のつながりがあり、災害時にも役立つ。 ・学校が小規模であり、目の行き届いた、周辺環境を活かした教育を受けられる。	・若い世代が出ていき、少子高齢化が進む。 ・担い手不足により、山や川の整備が難しくなっている（豊な自然が荒廃していく）。
外部環境	・市街地及び岡崎東インターチェンジ両方とも車で 10～15 分程度の距離である。 ・学校になじめない児童、生徒の転入を市が許可すれば受け入れられる。	・公共交通機関が不便である。 ・自家用車がなければ生活不便。 ・子どもの遊び場（公園）がない。 ・転入するとしても住居を新築できない。

Ⅲ 人口推計

2015 年の本学区の人口は 1,034人でしたが、推計では今後減少が続くとされており、**2045 年には本学区の人口は 734 人程度にまで減少**すると予測されています。

資料：岡崎市総合計画関連資料

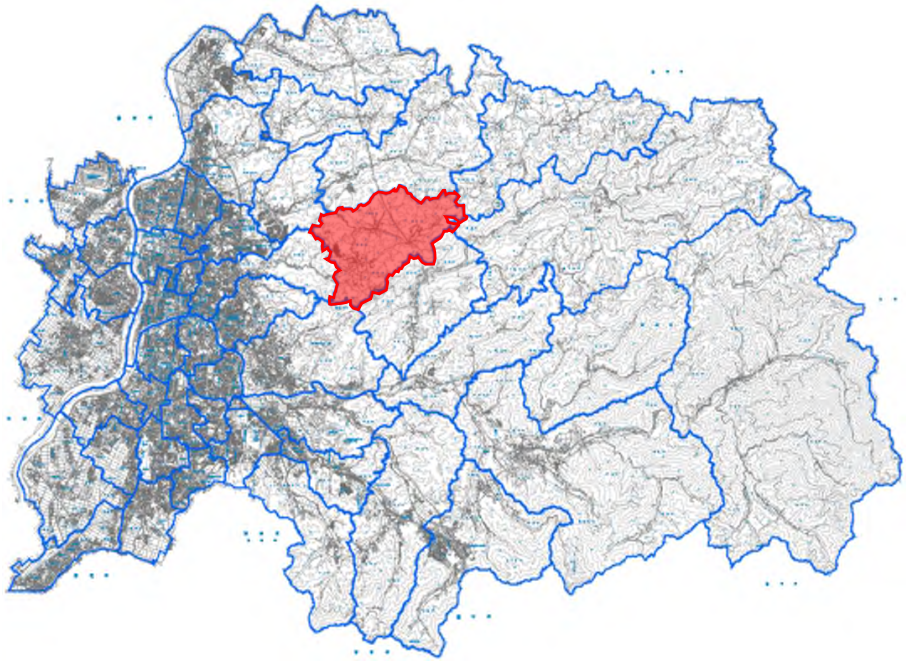


ホタルの乱舞。乙川の上流より秦梨大橋を望んだ風景

秦梨小学校　里山教育（水質検査）

③ 常磐南学区

常磐南学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ 地域の概要・保有資源

地域	中央地域
中学校区	常磐
位置・概要	田口町、板田町、岩中町、大井野町の４町からなる面積 9.62km^2 の地域。かつて日本一の葉タバコ生産地だった場所は自然薯畑となり、御歳暮用などの人気特産品となっている。何代にもわたる素晴らしい先人たちが歴史や文化、伝統、慣習などをつくりあげ、引き継がれている地域である。
伝統文化	・雅楽クラブと和太鼓クラブ　・萬福寺雅楽会　・１７年ごとの岩谷観音御開帳
地域行事・イベント	・ＥＳＤ研究発表会　・収穫感謝の会 ・家族ふれあいハイキング ・地域の人に先生になっていただいて学区のことを深く学ぶ学習や敬老会
自然資源・観光資源	・ゲンジボタル　・田口町のてんぐ岩　・道根往還 ・田口町の２つの牧場　・エコロタウンときわ南　・板田川 ・常南の自然薯畑　・たくさんの野鳥と出会える野鳥観察エリア
主要施設	・常磐南小学校　・ザ・トラディションゴルフクラブ ・常磐中学校　・中央クリーンセンター ・常磐南学区市民ホーム ・常磐南学区こどもの家
産業・特産品・農産品	・米　・自然薯 ・花崗石　・牛乳　・ときなんＴシャツとときなんポロシャツ
名所・史跡・	・岩谷観音　・八州一覧石　・萬福寺

歴史資源	・西方寺　・白山神社　・熊野神社 ・石屋の弘法様　・八幡宮　・源光寺
地域団体・地域活動	・常南自然じょ生産組合
市計画での方向性	・地域の西側の中心市街地では本市の顔にふさわしい都市機能の集積を進め、東側では豊かな自然環境を保全しつつも住み続けられる居住環境を維持するまちづくりを目指します。（都市計画マスタープランの地域別構想） ・イノシシ、シカ、サル、ハクビシンなどによる農林産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：常磐南学区）、岡崎市 HP

Ⅱ 地域意見

■学区アンケート結果(主な意見)

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・里山の風景が残っている。 ・住民の協調性が高く、行事への参加率も高い。 ・伝統的行事を残そうとしている。	・担い手不足により、森林、農地の管理が不足してきている。 ・耕作放棄地の増加。 ・昔からのしきたり、慣習がある。 ・人口減少が進む。
外部環境	・市街地から近く、道路も整備されており、通勤の便も良い。 ・空き家、空き地など新規参入可能な場所はある。	・道路（歩道）が整備されていないが、企業進出により交通量が増加し危険。 ・法規制により空き家利用、新築、増改築等の制限がある。 ・鳥獣害がひどい。

■農業者ワークショップから見る現状と課題

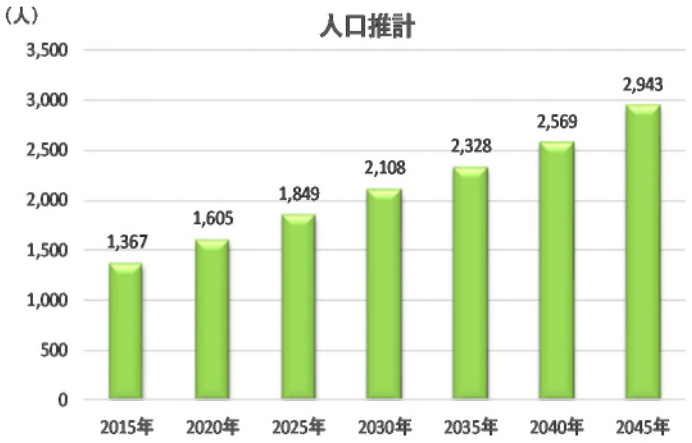
・市街化の進行（周辺に住宅が多い、農業以外の仕事が多い、税金が高い）
・農地が分散している（移動のために燃料費もかかる）
・「儲かる」「生き残れる」農業
・新規農業従事者を増やす（リタイア層や小規模農家含めて）

資料：農業振興ビジョン（北部地区）

Ⅲ 人口推計

2015 年の本学区の人口は 1,367人でしたが、推計では今後増加が続くとされており、**2045 年には本地域に人口は 2,943 人程度にまで増加**すると予測されています。

資料：岡崎市総合計画関連資料

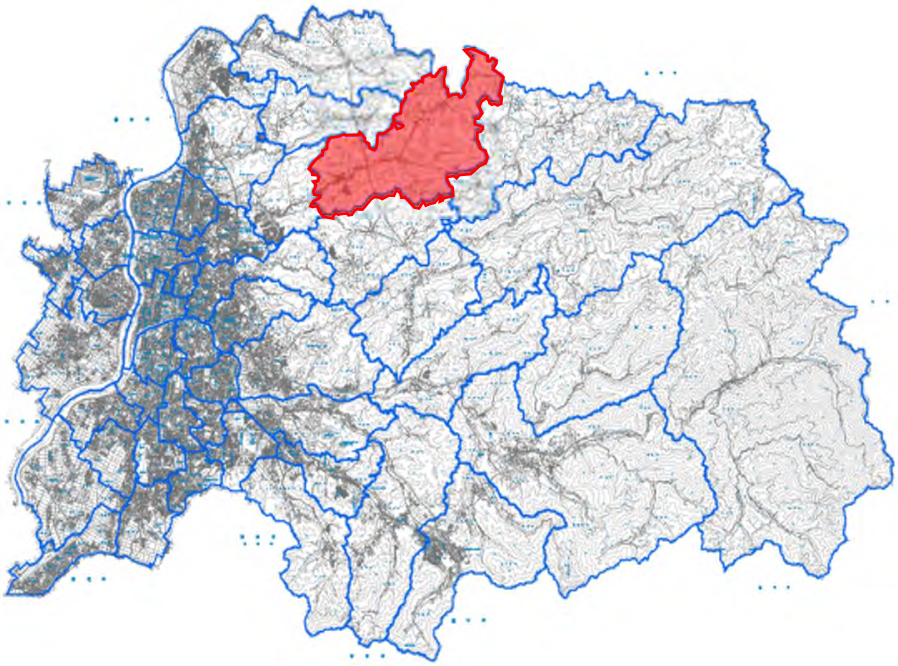


17 年ごとの岩谷観音御開帳

点在する家々と、それを見下ろす熊野神社や白山神社。すべてが調和した美しさ

④ 常磐東学区

常磐東学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ　地域の概要・保有資源

地域	中央地域
中学校区	常磐
位置・概要	お祭りが盛んな面積 15.13km^2 の地域。今も県道沿いには隠れた自然や名所が多く、歴史探策もできる。古来からの伝説や伝統行事も多く、学校をよりどころに人々の暮らしの中で脈々と引き継がれている。
伝統文化	・熊野神社のどぶろく祭り　・米河内八幡宮の秋の例大祭（巫女の舞、奉納太鼓） ・米河内八幡宮の秋の例大祭（巫女の舞、奉納太鼓）
地域行事・イベント	・子安観音祭　・青木川の鯉のぼり ・青木川の灯籠流し　・常磐東小学校学区合同運動会 ・常磐東小学校学区合同運動会 ・火の用心、元旦祭、消防団の出初放水
自然資源・観光資源	・辻のやまざくら　・牛落渓谷　・ホタル飛翔地 ・亀石の伝説　・常磐東小学校のツリーハウス ・新居のやぶつばき　・常磐東小学校の樹木文字
主要施設	・常磐東小学校　・独立行政法人家畜改良センター岡崎牧場 ・常磐中学校 ・常磐東学区市民ホーム ・常磐東学区こどもの家
産業・特産品・農産品	・シイタケ

名所・史跡・歴史資源	・浄土真宗本願寺派の法輪山長光寺　・子安観音 ・旧常磐東小学校跡地碑　・開元通宝の出土記念碑 ・大柳八幡宮　・新居町八幡宮　・小丸八幡宮 ・福田学校跡地碑　・熊野神社　・安戸神明宮 ・米河内八幡宮　・米山学校跡地　・大柳学校跡地
地域団体・地域活動	・社会教育委員会
市計画での方向性	・イノシシ、シカ、サル、ハクビシンなどによる農林産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：常磐東学区）、岡崎市 HP

Ⅱ 地域意見

■学区アンケート結果(主な意見)

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・山、川などの自然に恵まれている。 ・人間関係がよく、助け合っている。 ・市の中心部から車で 30 分程度の範囲 ・治安が良い。	・高齢化が進み、若い人が少ない。 ・１人で町の役を複数担わなくてはならない。 ・圃場整備されておらず、耕作放棄地が増加している。 ・特産やイベントなど目玉がない。
外部環境	・使われていない土地、建物がある。 （耕作放棄地の活用）	・獣害が多い。 ・道路が狭いが、通勤関係で交通量が増えている。歩行者が迂回している状態である。 ・市街化調整区域、保安林などによる開発制限がある。 ・所有農地が少なく取得要件を満たさないため、農地を購入できない。

■農業者ワークショップから見る現状と課題

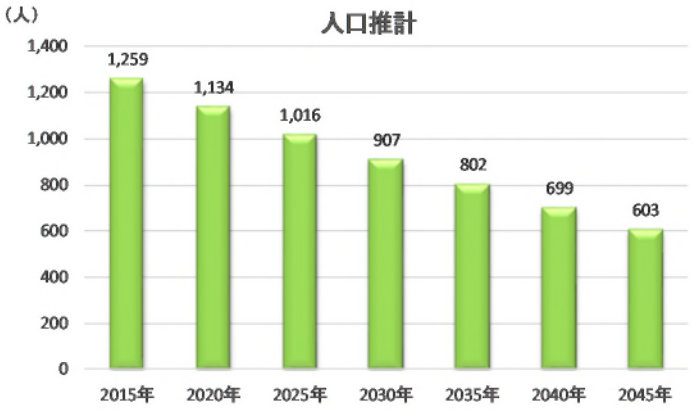
- 市街化の進行（周辺に住宅が多い、農業以外の仕事が多い、市街地の税金が高い）
- 農地が分散している（移動のために燃料費もかかる）
- 「儲かる」「生き残れる」農業
- 新規農業従事者を増やす（リタイア層や小規模農家含めて）

資料：農業振興ビジョン（北部地区）

Ⅲ 人口推計

2015 年の本学区の人口は 1,259 人でしたが、推計では今後減少が続くとされており、**2045 年には本学区の人口は 603 人程度にまで減少**すると予測されています。

資料：岡崎市総合計画関連資料



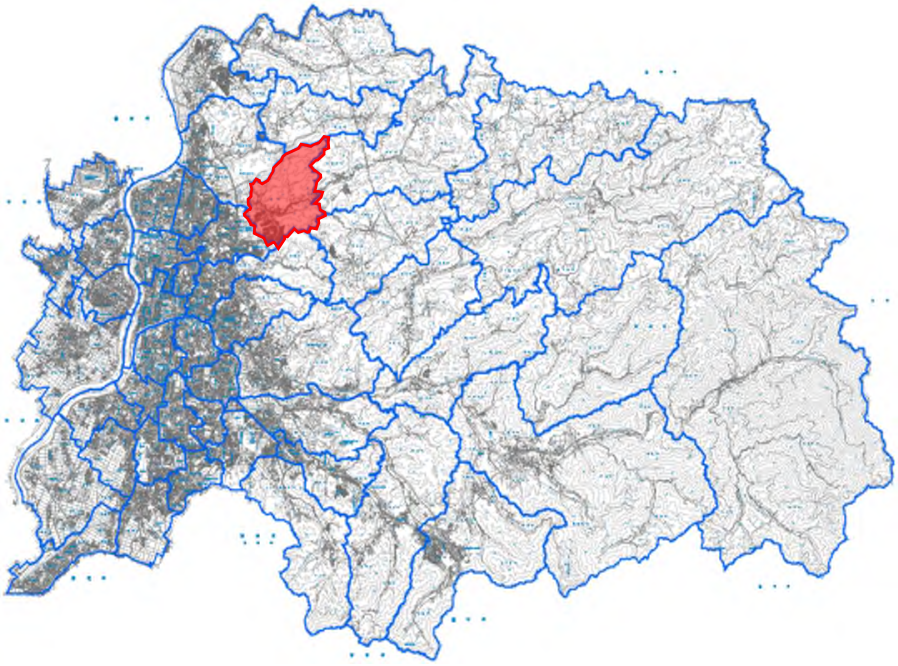
長光寺のシダレザクラ
植えられたのは江戸時代の後期

長光寺のホソバシャクナゲ
樹齢は約 150 年、樹高約５m の大木

青木川に願いや決意などを書いた文字がほんのりと浮かび上がり、次々と途切れることなく流れていく灯篭流し

⑤ 常磐学区

常磐学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ 地域の概要・保有資源

地域	中央地域
中学校区	常磐
位置・概要	鬼まつりで有名な瀧山寺、家康公ゆかりの瀧山東照宮など国の重要文化財を始めとする歴史上価値の高い建造物が数多く見られ、周辺の山並みや河川と一体となった歴史的な風情が感じられる面積 5.03km^2 の地域。現在、滝団地・緑風台の新しい住民と旧来の滝町住民とが互いに理解を深め、自然・ 歴史文化を核とした、新しい常磐学区の絆づくりを進めている。
伝統文化	・瀧山寺鬼まつり
地域行事・イベント	・収穫祭（芋掘り体験、芋煮会）
自然資源・観光資源	・三界の滝 ・水くぐり橋 ・花園農園
主要施設	・常磐小学校　・滝団地 ・常磐中学校　・花園農園 ・常磐学区市民ホーム ・常磐学区こどもの家
産業・特産品・農産品	・芋類
名所・史跡・	・瀧山寺　・瀧山東照宮　・瀧山寺　・三門（仁王門）　・天王神社

歴史資源	・青木川の堰堤　・弘願寺　・萬松寺　・日吉山王社 ・入山墓地　・宝物殿　・恵日堂　・宝筐印塔
地域団体・地域活動	・滝山寺地区文化財を修復・整備する会
市計画での方向性	・イノシシ、シカ、サル、ハクビシンなどによる農林産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：常磐学区）、岡崎市 HP

Ⅱ 地域意見

■学区アンケート結果(主な意見)

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・瀧山寺、瀧山東照宮などの文化財が集中している。 ・有志により、文化財の修復を行うためのＮＰＯ法人が設立されている。	・瀧山寺、瀧山東照宮参拝者・見学者の駐車場やトイレが不足している。
外部環境	・瀧山寺地区は歴史的風致維持向上計画における重点区域となっている。	・圃場整備がされていない。 ・獣害が多い。 ・道路整備が不足している。

■農業者ワークショップから見る現状と課題

- 市街化の進行（周辺に住宅が多い、農業以外の仕事が多い、税金が高い）
- 農地が分散している（移動のために燃料費もかかる）
- 「儲かる」「生き残れる」農業
- 新規農業従事者を増やす（リタイア層や小規模農家含めて）

資料：農業振興ビジョン（北部地区）

Ⅲ 人口推計

2015 年の本学区の人口は 4,344人でしたが、推計では今後減少が続くとされており、**2045 年には本学区の人口は 3,271 人程度にまで減少**すると予測されています。

資料：岡崎市総合計画関連資料

瀧山東照宮
国の重要文化財。日本三大東照宮の一つに数えられている

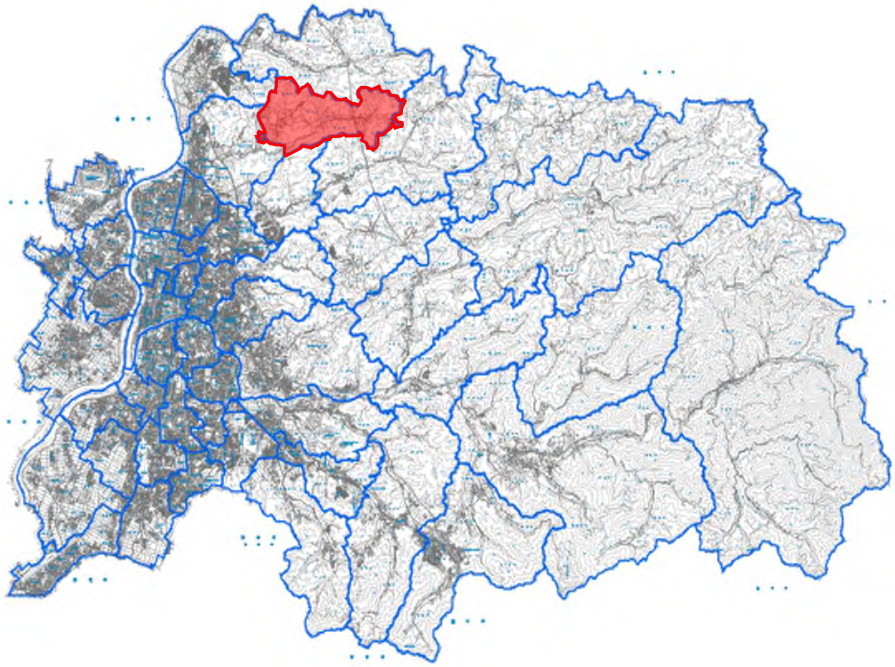
瀧山寺・三門（仁王門）
国の重要文化財。瀧山寺から約１km離れているが、鎌倉時代にはこの区画全体が寺の境内だった

瀧山寺
奈良時代に創建された古刹。源頼朝の等身大の聖観音像など、国の重要文化財も数多く保存されている

瀧山寺鬼まつり
本堂の回廊が多くの炎に彩られる火まつり。瀧山寺鬼まつりのクライマックスを飾るにふさわしい迫力

⑥ 恵田学区

恵田学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ　地域の概要・保有資源

地域	岩津地域
中学校区	岩津
位置・概要	国道 248 号から東に向かうこと車で５分、恵田町、丹坂町、駒立町の３町からなる面積 6.56km^2 の地域。豊かな自然や地域住民のつながりなど、たくさんのめぐみがある。
伝統文化	・丹坂町の「桜婆」お話 ・駒立町の巫女の舞奉納（巫女の舞）
地域行事・イベント	・岡崎駒立ぶどう狩り　・花園ふれあいまつり ・学区生涯学習講座　・落ち葉スキーフェスティバル
自然資源・観光資源	・石神のちょうせんがや ・恵田小学校前の桜並木
主要施設	・恵田小学校　・落ち葉スキー場 ・岩津中学校　・ライクタウン花園（団地） ・恵田学区市民ホーム　・花園工業団地 ・恵田学区こどもの家 ・花園高齢者生きがいセンター
産業・特産品・農産品	・ぶどう ・もち米 ・キウイ
名所・史跡・	・駒立愛宕神社　・抱き地蔵　・丹坂八幡宮

歴史資源	・恵田八幡宮　　・本光寺　　・浄教寺 ・県道 339 号長沢東蔵前線の開通記念碑
地域団体・ 地域活動	・子ども会　・防犯パトロール隊　・暁会（老人クラブ） ・福祉委員会　学区福祉だより「めぐみのさと」
市計画での 方向性	・地域の西側では鉄道駅や支所周辺を中心に良好な居住環境づくりを進め、東側では自然環境を保全するまちづくりを目指します。（都市計画マスタープランの地域別構想） ・イノシシ、シカ、サル、ハクビシンなどによる農林産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：恵田学区）、岡崎市 HP

Ⅱ 地域意見

■学区アンケート結果(主な意見)

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・自然豊か。 ・住民のつながりが強く、親しい。 ・観光地としてぶどう狩りが有名。	・住民が少なく、環境整備や学校の維持が大変である。 ・農業に関心のある若い人が少ない。 ・相続により町外地主増加。 ・耕作放棄地の増加。
外部環境	・遊休農地がある。家庭菜園利用が見込める。（家庭菜園の借り受け期間が必要） ・里山が急峻ではないので、体験場所として使える。 ・立地的にトヨタ、三菱などの企業に近い。	・鳥獣害が多い。 ・市街化調整区域、保安林、がけ条例などの規制により、新築・増改築の制限がある。 ・店舗がない。

■農業者ワークショップから見る現状と課題

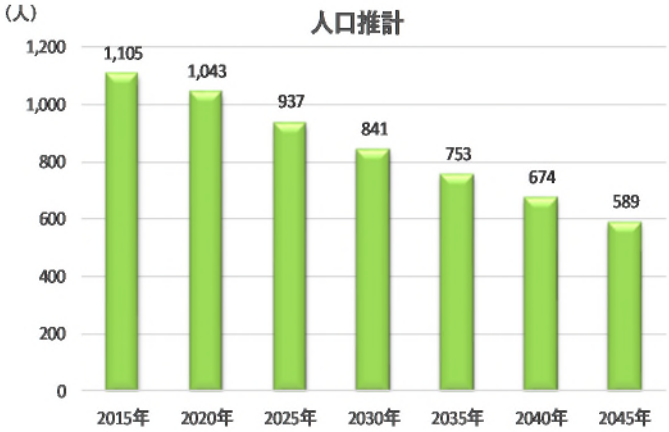
・市街化の進行（周辺に住宅が多い、農業以外の仕事が多い、税金が高い）
・農地が分散している（移動のために燃料費もかかる）
・「儲かる」「生き残れる」農業
・新規農業従事者を増やす（リタイア層や小規模農家含めて）

資料：農業振興ビジョン（北部地区）

Ⅲ 人口推計

2015 年の本学区の人口は 1,105人でしたが、推計では今後減少が続くとされており、**2045 年には本学区の人口は 589 人程度にまで減少**すると予測されています。

資料：岡崎市総合計画関連資料

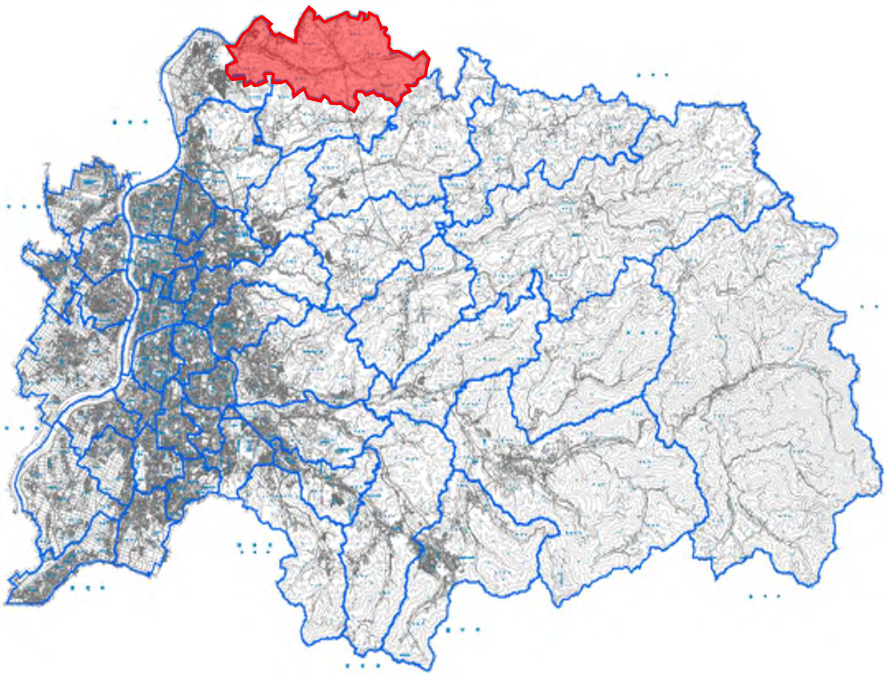


恵田小学校の豊かな心づくり
稲の刈り取りは、子どもたちが自然とふれあう大切な機会

駒立の観光ぶどう狩り

⑦ 奥殿学区

奥殿学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ 地域の概要・保有資源

地域	岩津地域
中学校区	新香山
位置・概要	「藩の奥座敷的な御殿がある村」が地名の由来といわれている面積 11.82km^2 の地域。四季折々の花が咲く奥殿陣屋、鳥のさえずりが聞こえる二畳ヶ滝、苔むす龍渓院など、歴史の浪漫を感じられる。
伝統文化	・松平乗謨（大給恒）
地域行事・イベント	・わらびかり ・竹寒天 ・もち花づくり
自然資源・観光資源	・とのさんはし　・二畳ヶ滝 ・村積山（三河富士）　・村積山自然公園（花園の里）
主要施設	・奥殿小学校　・カヌー練習場　・岡崎 SA ・新香山中学校　・岩津発電所 ・奥殿学区市民ホーム　・香山の里 ・奥殿学区こどもの家　・日影ダム
産業・特産品・農産品	・ガラ紡
名所・史跡・歴史資源	・桑原神社　・大澤山　龍渓院　・西光寺　・宮石八幡宮　・光泉寺 ・林宮寺跡　・奥殿陣屋　・御鍬神社　・日影神明宮　・村積神社 ・熊野神社　・奥殿神社　・正八幡宮　・法興寺

地域団体・地域活動	・福祉委員会　　・長寿クラブ ・新公共移動手段連絡協議会
市計画での方向性	・イノシシ、シカ、サル、ハクビシンなどによる農林産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：奥殿学区）、岡崎市 HP

Ⅱ　地域意見

■学区アンケート結果(主な意見)

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・花、星、ホタル、村積山、二畳ヶ滝など自然豊かである。 ・インターネット、下水道など生活環境が整備されている。 ・水路、農道、田畑も整備され、耕作しやすい。（場所によっては古く使えない） ・奥殿陣屋等観光施設がある。 ・岡崎サービスエリアがある。	・住民の高齢化と、地域の担い手不足。 ・耕作放棄地が点在し、面積が狭い。 ・田を畑に変更する世帯が多くなってきている。
外部環境	・市民農園の設置要望がある。 ・高速道路に近く、アクセスが良い。 ・農業体験可能な畑がある。	・鳥獣害が多い。 ・公共交通手段が少ない。 ・駅、病院、商店が遠い。 ・用水路が老朽化し、十分な水が確保できない。

■農業者ワークショップから見る現状と課題

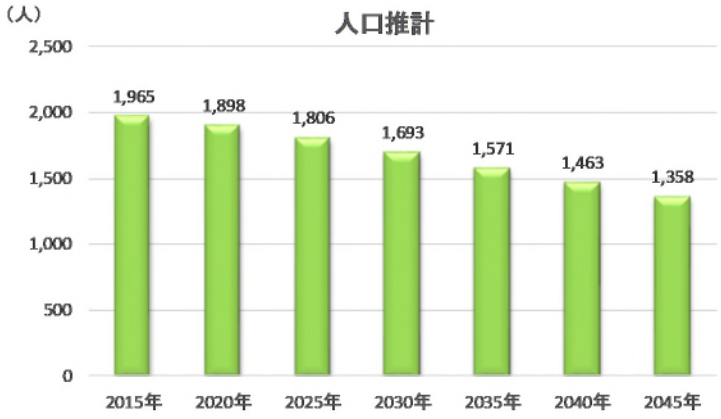
- 市街化の進行（周辺に住宅が多い、農業以外の仕事が多い、税金が高い）
- 農地が分散している（移動のために燃料費もかかる）
- 「儲かる」「生き残れる」農業
- 新規農業従事者を増やす（リタイア層や小規模農家含めて）

資料：農業振興ビジョン（北部地区）

Ⅲ 人口推計

2015 年の本学区の人口は 1,965人でしたが、推計では今後減少が続くとされており、**2045 年には本学区の人口は 1,358 人程度にまで減少**すると予測されています。

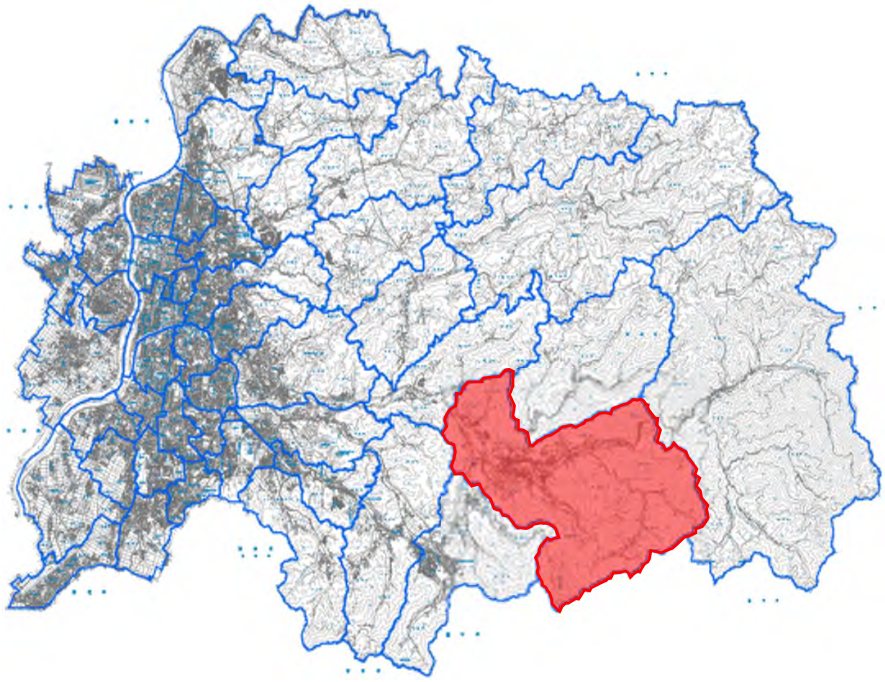
資料：岡崎市総合計画関連資料



奥殿陣屋
奥殿藩の陣屋跡。書院が復元され、
藩主御廟所には歴代藩主の墓がある

⑧ 豊富学区

豊富学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ　地域の概要・保有資源

地域	額田地域
中学校区	額田
位置・概要	清涼な水と緑に囲まれ、長い歴史に培われた文化や産業、豊かな自然など、素晴らしい環境に恵まれた面積 32.27km^2 の地域。中心地である豊富学区には新東名の岡崎東インターチェンジができ、「将来に向けて、夢のある地域づくり」に邁進する。
伝統文化	・春季例大祭　須賀神社の山車
地域行事・イベント	・初日の出を見る会 ・ホタルまつり ・おおだの森保護活動
自然資源・観光資源	・瀬長の猪垣　・とよとみ梨　・寺前川 ・おおだの森　・片寄用水　・額田町閉町記念碑　・小太郎岩 ・ホタルの里 とっかわ　湧水群　延命水・産湯の滝・庚申の水
主要施設	・豊富小学校　・岡崎市ホタル学校 ・額田中学校　・岡崎市わんパーク ・豊富学区市民ホーム　・額田緑園工業団地 ・額田支所　・東消防署　額田出張所 ・額田センター・こもれびかん　・岡崎東 I.C ・豊富学区こどもの家　・豊富児童育成センター
産業・特産品・農産品	・米、ジネンジョ、なす
名所・史跡・	・桜井寺　・鹿勝川庚申堂　・西牧野遺跡（旧石器時代） ・須賀神社　・小太郎の墓　・牧平遺跡（縄文時代晩期）

歴史資源	・天恩寺　・神明宮　・下堺津遺跡（縄文時代後期） ・小金城跡　・鳥川城跡　・ハッ田遺跡（弥生時代後期）
地域団体・地域活動	・鳥川ホタル保存会 ・おおだの森保護事業者会「山留舞会」 ・豊富夏山まちづくり協議会
市計画での方向性	・豊かな自然環境の保全・活用と地域の特徴を生かしたまちづくりを目指します。（都市計画マスタープランの地域別構想） ・岡崎東インターチェンジを拠点とした観光地化を進める。（山村振興計画） ・額田地区での㈱アグリみかわ等の地域の中心となる経営体（担い手）へ農地の集積と作業受委託を一層推進する。また、ミネアサヒ、夏秋なす、自然薯、山菜など中山間地域の特性を活かした特産品の生産振興・支援（人・農地プラン） ・イノシシ・シカ・サル・ハクビシンなどによる農産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：豊富学区）、岡崎市 HP

Ⅱ 地域意見

■学区アンケート結果(主な意見)

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・自然豊かで静か。 ・人と人のつながりが深く、自治会行事に積極的参加者が多い。 ・品質の良い米づくりができる。	・若者が移住してしまう。 ・人口減少、高齢化である。 ・農業の担い手不足。 ・空き家の増加。
外部環境	・高速道路の岡崎東インターチェンジが近く、近隣の市との移動が容易で、通勤にも便利。 ・公共交通機関も使えないことはない。 ・保育園や支所などもある。 ・休耕田を利用した体験イベント、山菜づくりなども可能である。 ・かき氷街道があり、人が訪れる。 ・わんパーク、ホタル学校などアウトドアを充実させる可能性のある場所がある。	・獣害が多い ・近くに商業施設がない。 ・法規制により建て替え等できない。 ・来訪者のマナー悪化 ・空き家が放置され景観が良くない。

■農業者ワークショップから見る現状と課題

- 高齢化により田畑の維持が困難（他人への作業委託多数）
- 離農者の増加、人手不足
- 農林業収入の減少により、後継者育成が難しい。（若者の農業への認識が不明）
- 獣害の悪化（電気柵だけでは対応不可。作付品目にも問題ありか）
- 情報中枢センター、交流サロンがない。
- 農地・森林の多面的機能への理解醸成（岡崎市の市街地を災害から守っている）
- 規模の追求ではなく Small is beautiful

・里山環境の活用（里山体験の充実等）
・高齢者用の移動手段の開発（モデル地になれるのでは）
資料：農業振興ビジョン（額田地区）

Ⅲ 人口推計

2015 年の本地域の人口は 4,353 人でしたが、推計では今後減少が続くとされており、**2045 年には本学区の人口は 2,884 人程度にまで減少**すると予測されています。

資料：岡崎市総合計画関連資料

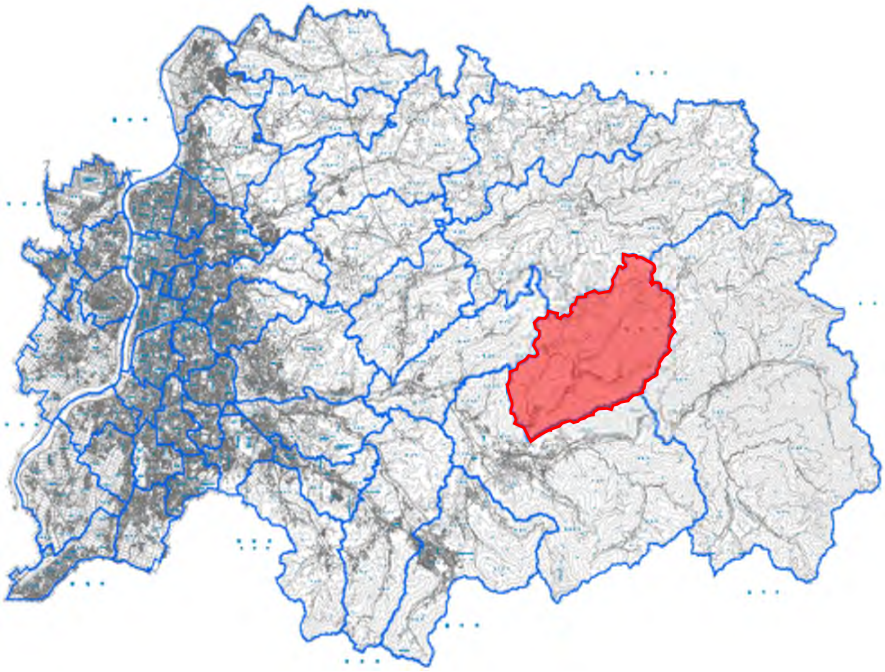
おおだの森
標高 262.3m の地域のシンボル
「初日の出を見る会」などのイベントも行われる

清流男川・鮎の友釣り

一足早くホタルが舞う寺前川
豊富小で学校川と呼ばれ親しまれている川。
周辺地域より約１週間早くホタルが乱舞する

⑨ 夏山学区

夏山学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ 地域の概要・保有資源

地域	額田地域
中学校区	額田
位置・概要	古い歴史や火まつりなどの伝統継承をする自然に彩られた面積 17.16km^2 の地域。夏山には推定樹齢 1,000 年とされる寺野の大楠や、根上がりの大杉といった巨木のパワースポットもあり、奥深い自然も知られている。岡崎市制 100 周年となり新東名高速道路の岡崎東インターチェンジが供用を開始し、２㎞圏内の夏山学区は利便性が良い。
伝統文化	・夏山八幡宮の火まつり　・注連縄と藁細工、ソダ山 ・相撲、鈴の舞、薙刀の舞、小刀の目利き、獅子討ち
地域行事・イベント	・夏山川ぴかぴか祭り ・仙丸公墓所の清掃 ・平針白山神社参道の清掃
自然資源・観光資源	・寺野の大楠（薬師堂）　・根上がりの大杉（諏訪神社）　・こうとり場 ・椋の木の山桜　・夏山八幡宮の社叢（しゃそう） ・あじさいの道　・夢山・水車小屋　・おおだの森
主要施設	・夏山小学校 ・額田中学校 ・額田ゴルフ倶楽部
産業・特産品・農産品	・米
名所・史跡・	・華蔵院　・松立寺　・秋葉社　・仙丸公墓所（遊仙寺） ・七人塚　・夏山城址　・夏山八幡宮　・牧泉庵

歴史資源	・白山神社　・松樹寺　　・黒屋氏の顕彰碑　・鬼沢八幡社
地域団体・地域活動	・夏山川環境整備ボランティア ・夏山子ども守り隊 ・老人会、PTA ・豊富夏山まちづくり協議会、ござらっせ委員会
市計画での方向性	・額田地区での㈱アグリみかわ等の地域の中心となる経営体（担い手）へ農地の集積と作業受委託を一層推進する。また、ミネアサヒ、夏秋なす、自然薯、山菜など中山間地域の特性を活かした特産品の生産振興・支援（人・農地プラン） ・イノシシ・シカ・サル・ハクビシンなどによる農産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：夏山学区）、岡崎市 HP

Ⅱ 地域意見

■学区アンケート結果(主な意見)

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・過ごしやすい気候である。 ・人情味のある人が多く、コミュニティの結びつきが強い。 ・整備すれば、平針白山社とその参道。	・世帯数が減少している。 ・高齢化が進んでいる。 ・住民にあきらめの境地がある。
外部環境	・高速道路の岡崎東インターチェンジまで近い。 ・ボランティア精神のある人が多い。	・有害鳥獣被害が多い。 ・公共交通機関が少ない。高校生の通学が不便である。 ・地元で働く場所がない。 ・市街化調整区域内では建築に規制がある。

■農業者ワークショップから見る現状と課題

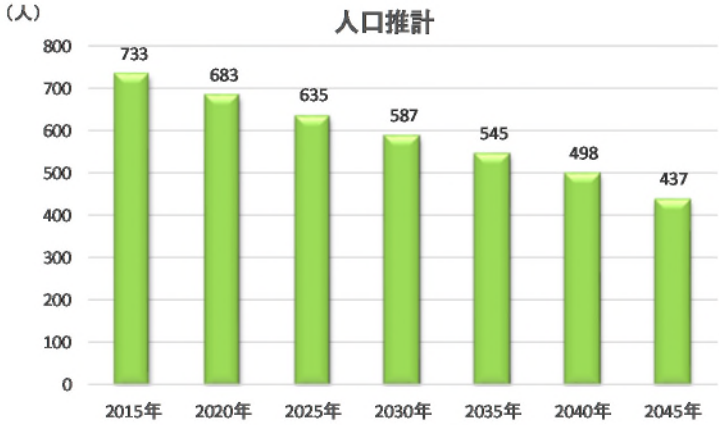
- 高齢化により田畑の維持が困難（他人への作業委託多数）
- 離農者の増加、人手不足
- 農林業収入の減少により、後継者育成が難しい。（若者の農業への認識が不明）
- 獣害の悪化（電気柵だけでは対応不可。作付品目にも問題ありか）
- 情報中枢センター、交流サロンがない。
- 農地・森林の多面的機能への理解醸成（岡崎市の市街地を災害から守っている）
- 規模の追求ではなく Small is beautiful
- 里山環境の活用（里山体験の充実等）
- 高齢者用の移動手段の開発（モデル地になれるのでは）

資料：農業振興ビジョン（額田地区）

Ⅲ 人口推計

2015 年の本学区の人口は 733 人でしたが、推計では今後減少が続くとされており、**2045 年には本学区の人口は 437 人程度にまで減少**すると予測されています。

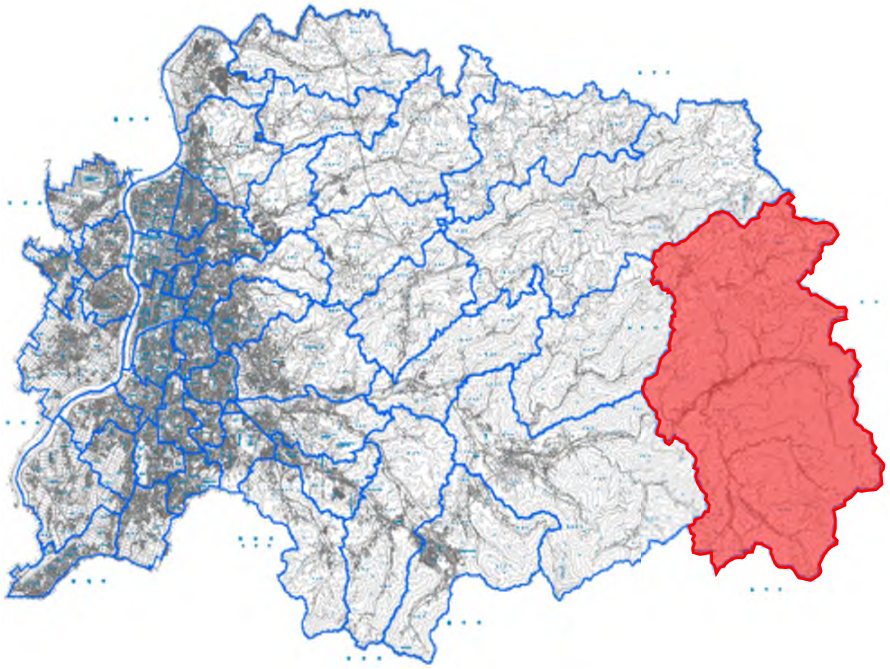
資料：岡崎市総合計画関連資料



夏山八幡宮の火まつり
（旧暦９月９日（現在の 10 月中・下旬頃）に近い土曜日または日曜日に開催）

⑩ 宮崎学区

宮崎学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ　地域の概要・保有資源

地域	額田地域
中学校区	額田
位置・概要	太古からの自然と整備された森林が共存する面積 58.70km^2 の地域。乙川と男川の水源の町。伝統ある宮崎村の森林整備が岡崎の水源をつくる役割を担っている。
伝統文化	・八剱神社大祭　・千万町神楽
地域行事・イベント	・茶摘み会　・愛鳥活動 ・ウッドカーリング大会 ・くらがりサウンドフェス
自然資源・観光資源	・千万町の野仏　・巴山(ともえやま)　・アサギマダラ、カワセミ、ネコギギ ・本宮山　・ミツマタ群生地　・くらがり渓谷 ・千万町坂　・石座神社の巨樹並木　・本宮山スカイライン ・三ツ石　・万足平の猪垣　・本宮山県立自然公園 ・大滝（王滝）　・瑞雲寺のクロガネモチ
主要施設	・宮崎小学校　・絆の森　・額田南部工業団地 ・愛知県野外教育センター ・額田中学校　・石原農村公園　・千万町楽校（旧千万町小学校） ・宮崎学区市民ホーム　・雨山ダム　・みつわ広場(旧大雨河小学校) ・宮崎診療所　・岡崎森林組合
産業・特産品・農産品	・宮崎茶、岡崎茶　・林業 ・米　・ヨモギ ・栗　・ワラビ
名所・史跡・	・石堂ヶ根合戦古戦場　・八剱神社　・滝山城跡　・雨山城址

歴史資源	・田原坂合戦古戦場　・白髭神社　・宮崎神社　・西蔵 ・滝山合戦古戦場　・東向寺　・林木育種場　・千万町棚田 ・雨山合戦古戦場　・久保城跡　・熱田神社　・万足平の猪垣
地域団体・地域活動	・宮崎まちづくり協議会　・親子探鳥会 ・万足平を考える会　・スポーツ推進委員 ・千万町神楽保存会 ・千万町・木下ふるさとづくり委員会　・じさんじょの会 ・みつわ会　・やまびこの会　・石原林道協議会
市計画での方向性	・額田地区での㈱アグリみかわ等の地域の中心となる経営体（担い手）へ農地の集積と作業受委託を一層推進する。また、ミネアサヒ、夏秋なす、自然薯、山菜など中山間地域の特性を活かした特産品の生産振興・支援（人・農地プラン） ・イノシシ・シカ・サル・ハクビシンなどによる農産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：宮崎学区）、岡崎市 HP

Ⅱ 地域意見

■学区アンケート結果(主な意見)　※地元要望により、全戸アンケートを実施

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・水源や豊富な森林資源がある。 ・地域活性化に取り組む人がいる。 ・地域づくりの活動団体が多数ある。 ・米、水、茶など特産物があり、そのブランド化の動きがある。 ・隣人、地区のきずなが強い。 ・生活の知恵をたくさん持った高齢者がいる。 ・歴史的文化財がある（城、石垣等） ・観光資源、自然体験資源が多い。	・過疎化、高齢化の進行（一部、容認せざるを得ないという雰囲気がある。） ・担い手不足により、地域の役が兼務となる。 ・地元の付き合いが多い。 ・空き家、空き農地の増加。（所有者不明の耕作放棄地の発生。） ・空き家の受け入れ態勢ができていない。 ・人口減により神社費、町内会費が高い。
外部環境	・移住してきた若者による取組みが行われている。 ・遊休公共施設等がある。（千万町倉庫、旧大雨河小学校、農村環境改善センター） ・アウトドア、キャンプなどに関心のある都市部住民が増えている。 ・サイクリング、バイクで訪れる人が多い。 ・活用できそうな耕作放棄地がある。 ・新型コロナ感染が少ない。	・鳥獣害の多発。 ・公共交通機関が少ない（ない）。 ・車の運転ができないと移動できない。 ・道路が狭い。（サイクリングの自転車、バイクが危険。） ・郵便局、農協、診療所など遠い。 ・店がない。生活用品購入手段がほとんどない。 ・人口減により住民だけでは解決できない。 ・来訪者のマナー悪化。 ・土砂災害警戒区域等の規制。

■農業者ワークショップから見る現状と課題

- 高齢化により田畑の維持が困難（他人への作業委託多数）
- 離農者の増加、人手不足
- 農林業収入の減少により、後継者育成が難しい。（若者の農業への認識が不明）
- 獣害の悪化（電気柵だけでは対応不可。作付品目にも問題ありか）
- 情報中枢センター、交流サロンがない。
- 農地・森林の多面的機能への理解醸成（岡崎市の市街地を災害から守っている）
- 規模の追求ではなく Small is beautiful
- 里山環境の活用（里山体験の充実等）
- 高齢者用の移動手段の開発（モデル地になれるのでは）

資料：農業振興ビジョン（額田地区）

Ⅲ 人口推計

2015 年の本学区の人口は 1,283人でしたが、推計では今後減少が続くとされており、**2045 年には本学区の人口は 569 人程度にまで減少**すると予測されています。

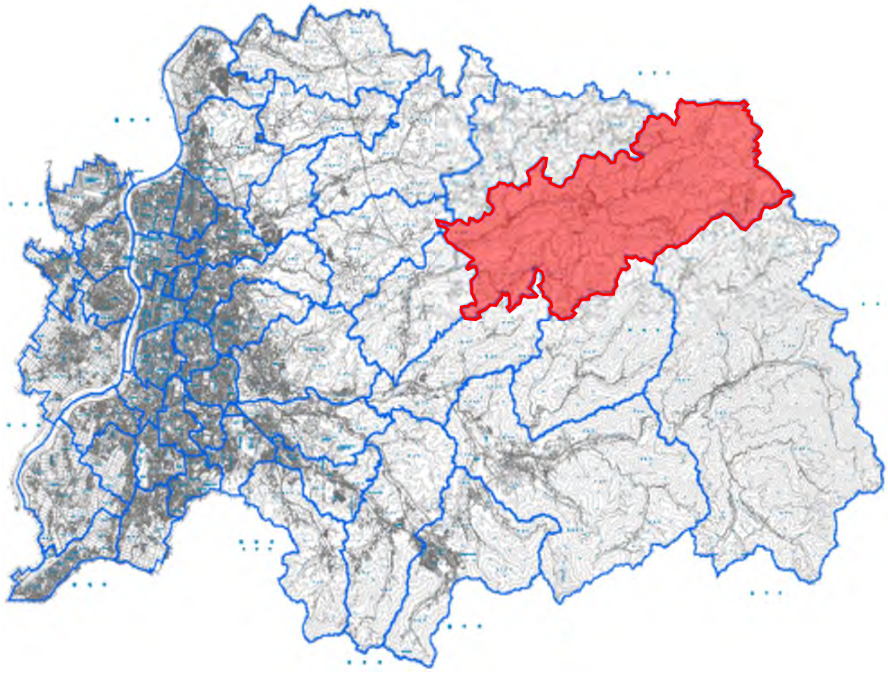
資料：岡崎市総合計画関連資料

万足平の猪垣
猪垣の修復作業

ミツマタ群生地

⑪ 形埜学区

形埜学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ 地域の概要・保有資源

地域	額田地域
中学校区	額田
位置・概要	市の北東に位置し、北側を豊田市、東側を新城市と接する面積 36.67km^2 の地域。地域住民が力を合わせて守るササユリ群生地や 11 ヶ所ある花壇のほか、専念寺やかおれ渓谷の桜など、豊かな緑の中に咲く季節の花々が見られる。
伝統文化	・日近太鼓
地域行事・イベント	・こいのぼりイベント　・太鼓フェスティバル ・乙川の水質調査活動　・いきいきふれあいの日 ・ササユリ保護活動
自然資源・観光資源	・かおれ渓谷　・切山の大スギ〈県天然記念物〉 ・細野霊水　・大滝 ・日近の里　・ヤママユガ生息地
主要施設	・形埜小学校　・東消防署　形埜出張所　・桜形駐在所 ・額田中学校　・形埜郵便局　・額田ゴルフ倶楽部 ・形埜学区市民ホーム　・JA形埜支店 ・北部診療所　・デンソー額田テストセンター
産業・特産品・農産品	・米 ・石工製品
名所・史跡・歴史資源	・大川神明宮/神楽殿（回り舞台）　・日近城址　・広祥院 ・岡崎城　北曲輪裏門　・桜形神社　・専念寺 ・東照宮跡　・大川城址

地域団体・地域活動	・かたのササユリの里育成会 ・日近の里を守る会 ・日近太鼓研究会
市計画での方向性	・北東部の中山間地域では、集落コミュニティの維持や都市との交流による地域維持に配慮し、本計画の基本となるまちづくりの方針を検討（立地適正化計画） ・額田地区での㈱アグリみかわ等の地域の中心となる経営体（担い手）へ農地の集積と作業受委託を一層推進する。また、ミネアサヒ、夏秋なす、自然薯、山菜など中山地域の特性を活かした特産品の生産振興・支援（人・農地プラン） ・イノシシ・シカ・サル・ハクビシンなどによる農産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：形埜学区）、岡崎市 HP

Ⅱ 地域意見

■学区アンケート結果(主な意見)

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・自然豊か。 ・ササユリの保全活動を実施しており、花を見に訪れる人もいる。 ・地域住民のまとまりがよい。 ・日近の里、かおれ渓谷は人気あるスポット（整備不充分という意見も）。 ・良質なコメが取れる。	・若い人が出て、１人住まいの高齢者が増加している。 ・空き家、耕作放棄地の増加。 ・おいしい農作物が取れても、地域住民の利益につながる施設がない。 ・食事する場所がない。
外部環境	・トヨタテストコースが近い。 ・道路沿いでも耕作放棄地がある（使いやすい）。 ・都市部へのアクセスが良い。	・耕地が狭い谷間で、急傾斜地である。 ・鳥獣被害が多発している。 ・病院、学校、商店が遠い。 ・携帯電波の電波状況が悪い。

■農業者ワークショップから見る現状と課題

- 高齢化により田畑の維持が困難（他人への作業委託多数）
- 離農者の増加、人手不足
- 農林業収入の減少により、後継者育成が難しい。（若者の農業への認識が不明）
- 獣害の悪化（電気柵だけでは対応不可。作付品目にも問題ありか）
- 情報中枢センター、交流サロンがない。
- 農地・森林の多面的機能への理解醸成（岡崎市の市街地を災害から守っている）
- 規模の追求ではなく Small is beautiful
- 里山環境の活用（里山体験の充実等）
- 高齢者用の移動手段の開発（モデル地になれるのでは）

資料：農業振興ビジョン（額田地区）

Ⅲ 人口推計

2015 年の本学区の人口は 1,389人でしたが、推計では今後減少が続くとされており、**2045 年には本学区の人口は 705 人程度にまで減少**すると予測されています。

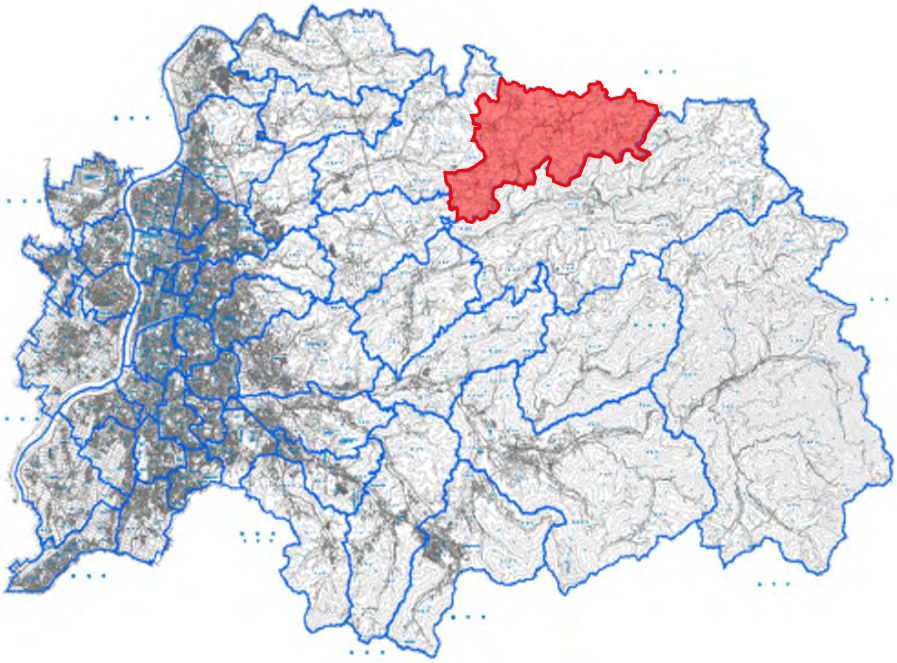
資料：岡崎市総合計画関連資料

地域で守るササユリ群生地
長年保護活動が続けられ、群生地が 14 か所ある。6月上旬から中旬が見頃。

日近太鼓

⑫ 下山学区

下山学区における地域の概要や資源、課題、人口推計等の地域を取り巻く現状は以下のようになっています。



Ⅰ　地域の概要・保有資源

地域	額田地域
中学校区	額田
位置・概要	野山に咲く花、吹き渡る風、鳥のさえずりから四季を感じられ、地域交通「ささゆりバス」がのどかに走る面積 15.05km^{2}の地域。標高約 350mのなだらかな山間に位置しながら、市街地まで約 15 ㎞という生活環境も魅力。岡崎市 47 学区のうち人口最少でありながらも、人の営みと自然が調和した暮らし、歴史文化を象徴する酒蔵、地域ぐるみの教育、活発な地域活動などがあり、小さいながらも魅力にあふれている。
伝統文化	・結返し
地域行事・イベント	・小さなやまがのウォーキング ・山桜を愛でる会
自然資源・観光資源	・七ツ蔵窯（炭焼きの森）　・古道 ・中伊のビュースポット　・保久川沿いの桜並木 ・弁慶の手刀岩　・山桜
主要施設	・下山小学校　・工業団地　・トヨタテクニカルセンター下山 ・額田中学校　・柴田酒造場 ・下山学区市民ホーム　・桃ケ久保農村活性化施設 ・りんぽ館　・オクオカ活性化拠点下山（旧 JA 下山支店）
産業・特産品・農産品	・代表銘柄「孝の司」 ・米
名所・史跡・	・庚申塔　・保久陣屋跡　・保久八幡宮　・山下家墓所（市指定文化財）

歴史資源	・山下家墓所（市指定文化財） ・熊野神社　・津嶋神社　・外山八幡宮　・白山神社 ・神明社　・若宮社　・神明宮　・県道の開削記念碑
地域団体・地域活動	・下山学区対策委員会 ・ぬかた炭焼の会
市計画での方向性	・北東部の中山間地域では、集落コミュニティの維持や都市との交流による地域維持に配慮し、本計画の基本となるまちづくりの方針を検討（立地適正化計画） ・額田地区での㈱アグリみかわ等の地域の中心となる経営体（担い手）へ農地の集積と作業受委託を一層推進する。また、ミネアサヒ、夏秋なす、自然薯、山菜など中山地域の特性を活かした特産品の生産振興・支援（人・農地プラン） ・イノシシ・シカ・サル・ハクビシンなどによる農産物への被害を防止するため、農用地への侵入防止柵設置に係る費用について補助を行う。（山村振興計画） ・中山間地等をはじめとする農村に人が住み続けるための条件整備、農村を支える新たな動きや活力の創出（食料・農業・農村基本計画）

資料：岡崎まちものがたり（学区ページ：下山学区）、岡崎市 HP

Ⅱ 地域意見

■学区アンケート結果(主な意見)　※全戸アンケートを実施

	プラスの要因	マイナスの要因
内部環境	・自然豊か。 ・酒という他にない地場産業がある。 ・地区の人間のつながりが強い。 ・町内で環境保全活動、見守り活動などに取り組んでいる。 ・クアオルトウオーキングコースが設定されている。	・高齢者が増加している。 ・近い将来空き家が増える懸念がある。 ・人口減少により、地域の役の負担が増加している。活動が減少している。 ・農業の担い手不足。 ・耕作放棄地の増加。 ・おいしい農作物が取れても、地域住民の利益につながる施設がない。
外部環境	・車なら市街地へ 30 分程度で行ける。 ・トヨタテストコースがある。 ・JA 下山支店が空き家である。	・商業施設や金融機関が撤退した。 ・鳥獣害がある。 ・稲作は、平地と比較して何倍も手間がかかるが、収量は少ない。

■農業者ワークショップから見る現状と課題

- 高齢化により田畑の維持が困難（他人への作業委託多数）
- 離農者の増加、人手不足
- 農林業収入の減少により、後継者育成が難しい。（若者の農業への認識が不明）
- 獣害の悪化（電気柵だけでは対応不可。作付品目にも問題ありか）
- 情報中枢センター、交流サロンがない。
- 農地・森林の多面的機能への理解醸成（岡崎市の市街地を災害から守っている）
- 規模の追求ではなく Small is beautiful

・里山環境の活用（里山体験の充実等）
・高齢者用の移動手段の開発（モデル地になれるのでは）

資料：農業振興ビジョン（額田地区）

Ⅲ 人口推計

2015 年の本学区の人口は 663 人でしたが、推計では今後減少が続くとされており、**2045 年には本学区の人口は 323 人程度にまで減少**すると予測されています。

資料：岡崎市総合計画関連資料

小学校校庭で地域を見つめ続けてきた山桜

樹齢 300 年の山桜を愛でる会

第２章　将来展開

基本理念（30 年後を見据えた 今後の目指す方向性）

住み慣れた地域で暮らし続けるための仕組みづくり

～オクオカ　イノベーション～

基本方針	重点事項
Ⅰ「くらし」の仕組みづくり	①　地域コミュニティ機能の維持や強化
	②　多面的機能の発揮の促進
	③　生活インフラ等の確保
	④　鳥獣害対策の推進
Ⅱ「しごと」の仕組みづくり	⑤　地域の特性を活かした複合経営等の推進
	⑥　地域経済循環の拡大
	⑦　新たなライフスタイルの推進
Ⅲ「交流」の仕組みづくり	⑧　関係人口の創出・拡大、地域を支える体制及び人材づくり
	⑨　魅力の向上・発信
	⑩　多面的機能に関する市民理解の促進

１　基本理念と基本方針

①　基本理念

本計画は、中山間地域を魅力ある持続可能な地域としていくために、30 年後を見据え、今後の目指す方向性を示すものであり、基本理念を以下のように定めます。

住み慣れた地域で暮らし続けるための仕組みづくり

～オクオカ　イノベーション～

「オクオカ」とは岡崎市の中山間地域を指す愛称として、都心の喧騒を離れ、落ち着いた時間を過ごせる岡崎の奥座敷、という意味を込めています。

また、地域づくりに当たっては、全く新しいものを外部から持ち込むのではなく、活用可能な地域の資源を発掘し、磨き上げ、さらにこれまでにない他分野と組み合わせる取組み「地域資源×○○」を進めることで、魅力ある持続可能な地域を作り上げることを理念としており、これを「イノベーション」と表しています。

中山間地域は、森林、土壌、水、大気などの豊富な自然環境、それを利用した農業や林業などの経済活動、そして、人々の暮らしを支える地域社会という、SDGｓの理念を構成する環境・経済・社会の三要素が密接に関連していることを踏まえ、農林水産物等の地消地産、地域資源を活用した地域経済循環の構築等により、ＳＤＧｓの達成に向け、地域における人材の発掘や核となるステークホルダーの組織化等の環境整備を促進します。

SDGs ゴール一覧表

1．貧困をなくそう
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

2．飢餓をゼロに
飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

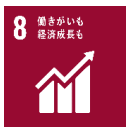
3．すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

4．質の高い教育をみんなに
すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

5．ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

6．安全な水とトイレを世界中に
すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

7．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネ ルギーへのアクセスを確保する



8．働きがいも経済成長も
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する

9．産業と技術革新の基盤をつくろう
強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

10. 人や国の不平等をなくそう
国内および国家間の格差を是正する

11. 住み続けられるまちづくりを
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする

12. つくる責任　つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する

13. 気候変動に具体的な対策を
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

14. 海の豊かさを守ろう
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

15. 陸の豊かさも守ろう
陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

16. 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

17. パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

② 基本方針

基本理念に定めた、「住み慣れた地域で暮らし続けるための仕組みづくり」を実現していくために、３つの基本方針を定めます。

基本方針Ⅰ 「くらし」の仕組みづくり

～地域活動、日常生活を維持していくための仕組みづくり～

高齢化や人口減少により、今後、さらに集落機能が低下し、集落そのものは当面維持されても、農地や森林の保全、買物・子育て等、集落での生活の維持に必要不可欠な機能が弱体化することが懸念されます。

今まで以上の活動の活性化には限界がある集落も想定されることから、集落の機能を補完するため、複数集落の範囲で地域資源の保全・活用や農林業振興と併せて、買物・子育て支援等、単独では採算性を有しない事業も含め、地域コミュニティの維持に資する取組みが重要と考えられます。

地域を維持していくため、あらゆる世代の人々が参画して地域の将来像についての話し合うことを促し、地域づくり、農林業振興、観光、文化、福祉、防犯等の面から集落機能を多機能化し、多様な主体と連携して、地域の人材の育成・活用や地域活性化を図ります。

重点事項

① 地域コミュニティ機能の維持や強化
② 多面的機能の発揮の促進
③ 生活インフラ等の確保
④ 鳥獣害対策の推進

オクオカ　イノベーション

地域住民×〇〇　**遊休施設等×〇〇**
空き家×〇〇　**伝統文化×〇〇**
農地・森林・河川×〇〇　**自然環境×〇〇**
有害鳥獣×〇〇

SDGs17 のゴールのうち、以下の達成に向けた取組みであるとともに、
他のゴール･側面と併せて統合的な課題解決を図る全市的な取組みの一環となります。

基本方針Ⅱ 「しごと」の仕組みづくり

～地域資源を活かして所得・雇用機会を確保する仕組みづくり～

中山間地域は、平地に比べ自然的、経済的に条件不利地が多く、十分な所得を確保できない地域も少なくない状況です。一方で、新型コロナウイルスの影響により、これまで農業・農村との関わりが少なかった都市部の人材が、農業・農村の価値や魅力を再認識し、都市と農村間の往来や農村に定住するなど、「田園回帰」「農村回帰」による人の流れが広がり、都市部の人材が地域活性化に貢献する動きも出始めています。

こうした状況を踏まえ、今後は、地域全体の所得向上のため、従来の農林業者が加工・販売なども行う6次産業化の取組みをこれまで以上に加速化するとともに、その考え方を拡張して中山間地域が有する地域資源を発掘し、その価値を磨き上げた上でこれまでにない他分野と様々な形で組み合わせることや、地域内外の幅広い関係者との新たな連携や関連産業の技術の活用等により、新たな事業・価値の創出や所得向上を図る取組みの推進を図ります。

重点事項

⑤　地域の特性を活かした複合経営等の推進
⑥　地域経済循環の拡大
⑦　新たなライフスタイルの推進

オクオカ　イノベーション

農村・森林空間×○○　　**地場産業×○○**
地域住民×○○　　**耕作放棄地×○○**

SDGs17 のゴールのうち、以下の達成に向けた取組みであるとともに、
他のゴール・側面と併せて統合的な課題解決を図る全市的な取組みの一環となります。

基本方針Ⅲ 「交流」の仕組みづくり

～様々な人材により地域の多面的機能を保全する仕組みづくり～

持続可能な地域を創造するためには、都市部住民も含め、地域の支えとなる人材の裾野を拡大していくことが必要であり、そのためには、農林業や農泊などを通じて都市住民が中山間地域に関わることで交流人口の創出を図り、そこから「関係人口」の創出・拡大と関係の深化を図っていく必要があります。

関係人口には、農林水産物の購入や各種行事への参画等により地域を支えるケース、援農等で農業に携わるケース、地域づくりに関わるケースなど、様々な形があると考えられ、都市部にいながら関わる形から始まり、中山間地域の仕事への関わりや継続的な訪問を経て生活の拠点を移す形に至るまで、段階を追って、中山間地域への関わりを深めていくことで、新たな担い手へとスムーズに発展していくことが想定されます。

今後は、中山間地域と関わるきっかけを創出するため、地域の魅力を発信し、各種交流事業を始め、さらに継続的に地域に関わり、地域活動等に参画する人材の創出・育成を図ります。

重点事項

⑧　関係人口の創出・拡大、地域を支える体制及び人材づくり

⑨　魅力の向上・発信

⑩　多面的機能に関する市民理解の促進

オクオカ　イノベーション

農村・森林空間×○○　　**地域住民×○○**

遊休施設等×○○

SDGs17 のゴールのうち、以下の達成に向けた取組みであるとともに、
他のゴール･側面と併せて統合的な課題解決を図る全市的な取組みの一環となります。

2　重点事項

基本方針ごとに、重点事項を定めて施策を推進します。

基本方針Ⅰ 「くらし」の仕組みづくり

重点事項①　地域コミュニティ機能の維持や強化

➢ **世代を超えた地域の住民による地域のビジョンづくり（68 ページ参照）**

地域住民×○○（話合いなど）

- 暮らし続けられる地域づくりを今後も継続して展開していく上では、現在ある地域の課題や今後懸念される課題への対応とともに、地域の歴史文化や様々な資源を活かしながら、地域住民が取り組みたいことや取り組むべきと思っていることを実施しやすくすることが重要です。
- そこで、将来を担う子どもたちなどの次世代の暮らしを見つめつつ、地域住民が地域づくりを“自分ごと”として捉え、できることを行動に移しやすい環境を整えていくために、学区ごとの地区別計画（将来ビジョン）を作成することを推奨し、これを支援します。作成に当たっては、一部住民の意見に偏ることの無いよう、地域の方が幅広く参加できる形で進め、必要な情報の提供や専門家派遣などの支援を行いながら、地域で決定し、共有することを支援します。
- 地域の現状把握と将来予測を前提とした地域の将来像を描く中で、土地管理のあり方についてまとめる際には、地域管理構想図として地図化するとともに、管理主体や管理手法を明確にした行動計画となるよう支援します。各地域で策定された地域管理構想図は、市の管理構想図の一部として編入し、農地については人・農地プランの地図として取り扱うことで、計画的に事業を展開していきます。

➢ 遊休施設等を活用した小さな拠点の形成（69 ページ参照）

遊休施設等×○○（話合い・都市部住民・事業者など）

- 地域内にある遊休施設等を農林業振興、観光、文化、福祉、防犯等の面から多機能化し、また地域活動、物販、都市部住民との交流等の拠点としても活用し、中山間地域の活性化を図ります。
- 施設の運営に関しては、民間事業者の他、地域運営組織・地域づくり事業体設立による運営も含め、地域の実情に合わせた体制を構築していきます。

➢ 移住･定住の促進

地域住民×○○（都市部住民など）
空き家×○○（都市部住民・事業者など）

- 豊かな自然など、地域の魅力を感じられる場所に移住相談窓口を整備するとともに、地域に移住アドバイザー（集落支援員）を配置し、移住希望者への対応の充実を図ります。
- 移住相談窓口では、地域の情報収集・整理、移住希望者への情報提供を行い、地域住民との調整等を行う体制を構築します。
- 空き家は地域コミュニティ維持のための地域資源と捉え、移住希望者が利用できるよう地域とともに取り組みます。また、市街化調整区域における移住・定住に向け、賃貸住宅としての利用も検討します。
- 現在、移住・定住促進に関する取組みとして実施している、振興山村地域（都市計画区域外）における空き家改修補助事業の充実を検討します。
- 活用可能な土地の発掘やものづくり企業などの進出などを契機とした移住環境の体制整備を検討します。
- 豊かな自然環境を活かした魅力づくりを展開し、子育て世代の移住・定住を促進します。

➢ 農地付き空き家の取得円滑化

空き家×○○（制度・都市部住民など）
農地×○○（制度・都市部住民など）

- 農地付き空き家（空き家に付随した農地の別段の面積の緩和）制度を適用する地域の拡大等を検討し、制度の充実を図るとともに、農業、農村生活に関心のある都市部住民に向けた情報提供を行い、取得の増加につなげます。

➢ 伝統文化の保護継承

伝統文化×○○（都市部住民など）

・有形・無形の文化財を始めとする貴重な伝統文化が伝承されてきましたが、少子・高齢化による後継者不足により、保存・継承が危ぶまれていることから、伝統文化を優れた地域資源として、その魅力を市内外に広く発信し、後継者の育成や地域の活性化につなげます。

【千万町神楽】

【大川神明宮/神楽殿（回り舞台）】

重点事項②　多面的機能の発揮の促進

➢ 農地、森林、河川の保全管理

農地、森林、河川×○○（都市部住民・事業者など）

- 農林水産業を基本とした地域の暮らしが維持され、多面的・公益的機能が十分発揮されるよう、地域内住民だけではなく、関心のある都市部住民の参加も図った活動組織の広域化や人材確保、省力化技術の導入により、保全管理活動を進めます。
- 多面的機能の維持・発揮のための地域活動や営農活動に対する国等の支援制度を活用した取組みを支援します。
- 有機農業の面積の拡大、減化学肥料栽培の推進や、農業用廃棄物の適正な処理の推進等、環境にやさしい農業を推進します。
- 内水面資源の保全を行うため、鮎の放流や本来あるべき漁場の維持管理等の取組みを行うとともに、内水面資源に対する市民の皆さんの理解促進を図ります。
- 針広混交林化と天然林化により水源かん養等の多面的機能の向上を図り、「うるおい」に貢献する森林を目指し、市民の皆さんの理解を醸成します。
- 耕作放棄地対策として、高収益作物の導入等を図り、農地の保全に取り組みます。

農業・農村の有する多面的機能とは、「国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能」のことをいいます。（農林水産省ホームページ）

また森林も、生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源のかん養、保健休養の場の提供などの極めて多くの多面的機能を有しており、私たちの生活と深く関わっています。日本学術会議の答申では、森林には多様な機能があるとされています。（林野庁ホームページ）

農業・農村の多面的機能

① 洪水防止機能（洪水を防ぐ機能）
畦に囲まれた田や耕作されている畑の土壌には、雨水を一時的に貯留する働きがあります。そのため、農地は、ダムのように洪水を防止する役割を果たしています。

② 土砂崩壊防止機能（土砂崩れを防ぐ機能）
斜面に作られた田畑は、日々の手入れによって土砂崩れを未然に防止することができます。また、田畑を耕作することで、雨が降っても雨水を地下にゆっくりとしみこませ、地下水位が急上昇することを抑える働きがあり、地すべりなどの災害を防止しています。

③ 土壌侵食防止機能（土の流出を防ぐ機能）
田畑の作物や田に張られた水は、雨や風から土壌を守り、下流域に土壌が流出するのを防ぐ働きがあります。

④ 河川流況安定機能（川の流れを安定させる機能）
水田に利用されるかんがい用水や雨水は、時間をかけて河川に還元されることにより、河川の流況を安定させ、下流地域の都市用水などに利用されています。

⑤ 地下水かん養機能（地下水をつくる機能）
田畑に貯留した雨水等の多くは地下にゆっくりと浸透して地下水となり、下流地域の生活用水などに利用されています。

⑥ 有機性廃棄物分解機能（有機物を分解し作物の養分に変える機能）
田畑の中にいるバクテリアなどの微生物は、家畜の排せつ物や野菜のくずなどから作った堆肥（有機物）を分解し、作物が養分として利用しやすい形に変えます。

⑦ 気候緩和機能（暑さをやわらげる機能）
田の水面からの水分の蒸発や、作物の蒸散により、空気が冷やされます。この冷涼な空気は、周辺市街地の気温上昇を抑える効果もあります。

⑧ 保健休養機能（癒しや安らぎをもたらす機能）
農村の澄んだ空気、きれいな水、美しい緑、四季の変化などが、安心と安らぎを与え、心と体をリフレッシュさせます。

⑨ 生物多様性保全機能（生きもののすみかになる機能）
田畑は、自然との調和を図りながら継続的に手入れをすることにより、豊かな生態系を持った二次的自然（人が手を加えることで形成・維持されてきた自然環境）が形成され、多様な生物が生息しています。

⑩ 景観保全機能（農村の景観を保全する機能）
農村地域では、農業が営まれることにより、田畑に育った作物と農家の家屋、その周辺の水辺や里山が一体となって美しい農村景観を形成しています。

⑪ 文化の伝承機能（農村の文化を伝承する機能）
全国各地に残る伝統行事や祭りは、五穀豊穣祈願や収穫を祝うものなど、稲作をはじめとする農業に由来するものが多く、地域において永きにわたり受け継がれています。

⑫ 教育の場としての機能
農村で、動植物や豊かな自然に触れることで、生命の大切さや食料の恵みに感謝する心が育まれます。

森林の多面的機能

①　生物多様性保全機能

我が国の森林は、約 200 種の鳥類、２万種の昆虫類をはじめとする野生動植物の生息・生育の場となっています。このように、森林は、遺伝子や生物種、生態系を保全するという、根源的な機能を持っています。

②　地球環境保全機能

森林は、温暖化の原因である二酸化炭素の吸収や蒸発散作用により、地球規模で自然環境を調節しています。

③　土砂災害防止機能／土壌保全機能

森林の下層植生や落枝落葉が地表の浸食を抑制するとともに、森林の樹木が根を張り巡らすことによって土砂の崩壊を防いでいます。

④　水源涵養機能

森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能を持っています。また、雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化されます。

⑤　快適環境形成機能

森林は蒸発散作用等により気候を緩和するとともに、防風や防音、樹木の樹冠による塵埃の吸着、いわゆるヒートアイランド現象の緩和などにより、快適な環境形成に寄与しています。

⑥　保健・レクリエーション機能

森林は、安らぎや癒しの効果をもつ空間であり、フィトンチッドと呼ばれる樹木からの揮発性物質を含めて健康増進効果があると言われています。また、行楽やスポーツの場を提供しています。

⑦　文化機能

森林のランドスケープ（景観）は、行楽や芸術の対象として人々に感動を与えるほか、伝統文化伝承の基盤として日本人の自然観の形成に大きく関わっています。また、森林環境教育や体験学習の場としての役割を果たしています。

⑧　物質生産機能

森林は環境に優しい資材である木材の生産のほか、各種の抽出成分や、きのこなどの生産の場となっています。

重点事項③　生活インフラ等の確保

➢ 生活インフラ等の確保

地域住民×○○（情報基盤・ＩCT・交通・事業者など）

・中山間地域に安心して住み続けられるようにするため、住居、情報基盤、交通等の生活インフラ等を確保するための取組みを推進します。
・「農地付き空き家」に関する情報提供や取得の円滑化を図ります。
・地域内交通、移動販売等の食料品アクセスの確保・維持の方法について検討します。
・インターチェンジやバイパスなどの交通インフラの有効活用も図っていきます。

➢ 自然環境等を活かした教育の推進

自然環境×○○（教育・学校・制度・都市部住民・事業者など）

・小規模特認校制度を活用して、自然環境、歴史・文化等の地域資源、地域とのつながりや顔の見える関係性の中で、地域への愛着や誇りを持てるよう少人数ならではの特色を生かした子育て、教育を推進し、地域の活性化に繋げます。
・豊かな自然に触れながら、目の前にある環境に自由に向き合い、感じることを大切にする場づくりを行い、ＳＤＧｓへの理解を深める活動に取り組みます。

➢ 定住条件の整備

地域住民×○○（情報基盤・ＩCT・事業者など）

・テレワーク・ワーケーションなどの新しい働き方、医療・教育・防災等の分野での活用、情報基盤・生活品購買など、生活をする上で、今後より一層 ICT の重要性が増すことが想定されるため、新たな情報通信環境の整備とともに、地域住民の ICT スキルアップの取組みを支援します。

重点事項④　鳥獣害対策の推進

➢ 有害鳥獣捕獲等体制の強化

有害鳥獣×○○（団体活動・地域活動など）

・岡崎市鳥獣害対策協議会、猟友会等の団体、地域住民と連携して見回りや捕獲・追払等の体制を強化し、有害鳥獣被害の抑制を図ります。
・地域の大学とも連携しながら、効果的な被害対策手法等の確立を図ります。

➢ 担い手の育成・確保

有害鳥獣×○○（団体活動・地域活動・都市部住民など）

・狩猟免許取得に対する支援を行うとともに、鳥獣害の現状、担い手の必要性などを周知し、狩猟者を増やすための啓発活動を推進します。

➢ ICT 技術導入による捕獲作業の軽減化

有害鳥獣×○○（情報基盤・ＩCT など）

・センサーを用いた自動捕獲装置や捕獲檻の作動をメールで通知する装置などを導入し、捕獲者の負担軽減を図ります。

➢ ジビエの有効活用

有害鳥獣肉×○○（新たな活用・団体活動・事業者など）

・捕獲した鳥獣も地域の有効な資源とするため、肉などの処理加工を可能とするための人材育成や施設整備、ペットフード等多様な用途への活用方法等の検討に取組み、関係者が共有できる捕獲から処理加工までの体制構築を図ります。

➢ 有害鳥獣誘引ほ場

有害鳥獣×○○（耕作放棄地・山林など）

・山奥の耕作放棄地等に、果樹（栗・柿・桑・木苺等）を植樹し、サル・イノシシ・シカの餌場を整備することにより、里山や市街地辺縁部の生息域から山奥に誘引し、農作物被害を軽減する試みを実施します。

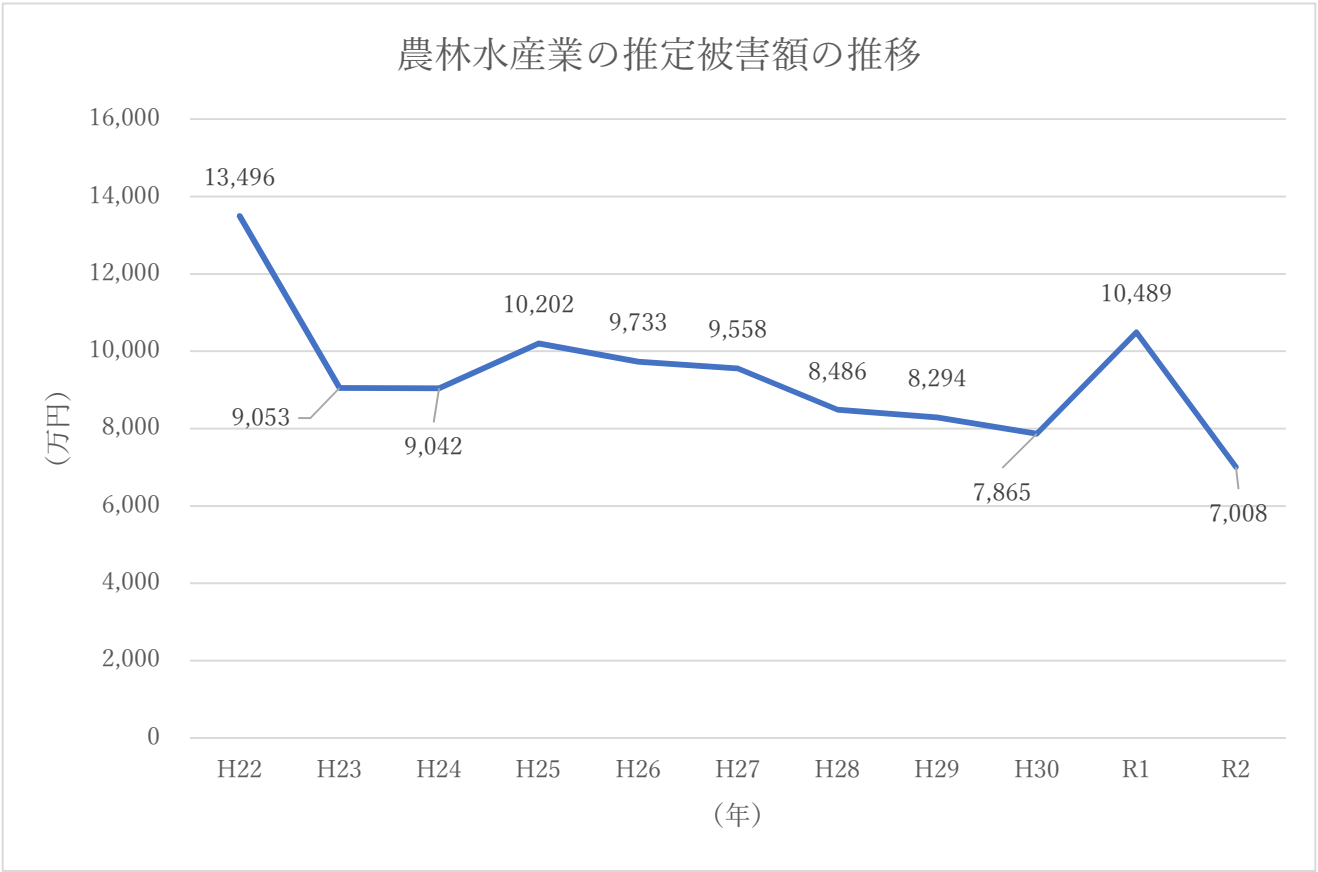
➢ 地域ぐるみの体制構築

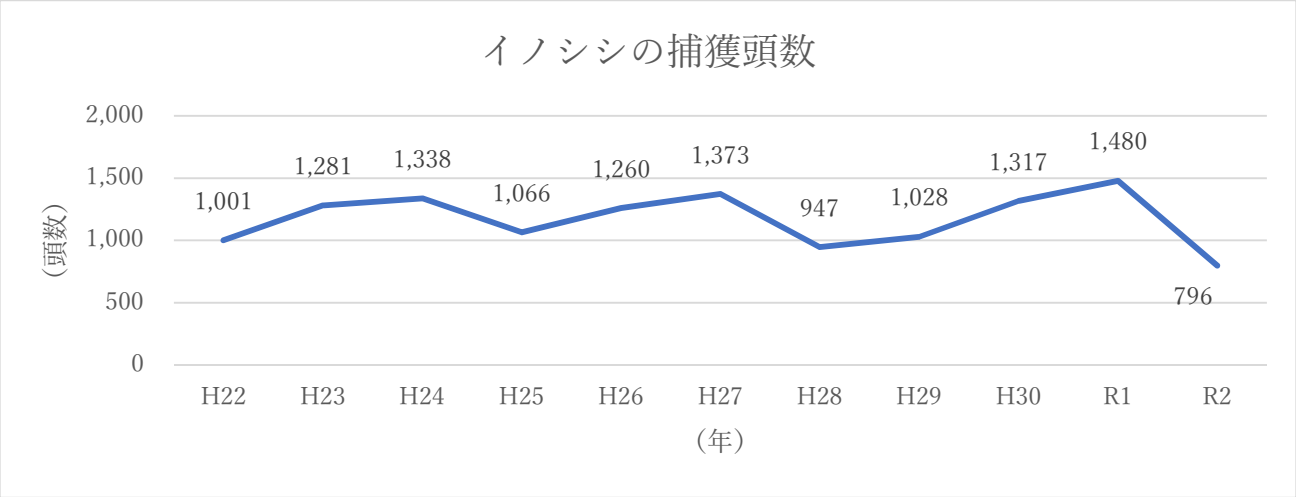
有害鳥獣×○○（団体活動・地域活動・都市部住民など）

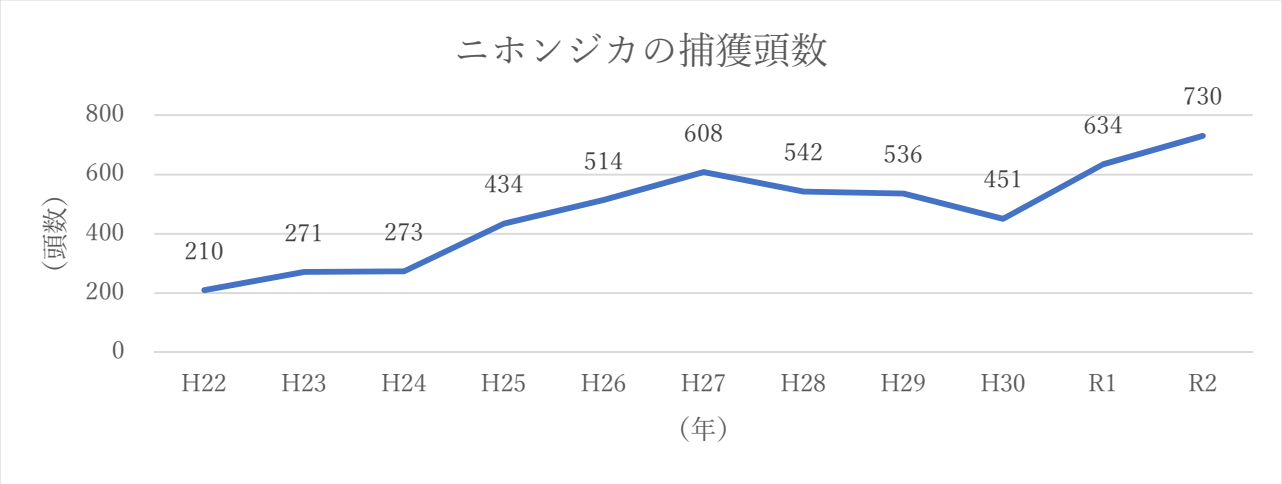
・狩猟免許がなくても実施可能である罠の見回りや餌付け等の捕獲作業を、地域ぐるみで取り組み、農作物被害の軽減に加え、安全で安心な生活環境を確保する体制の構築を図ります。

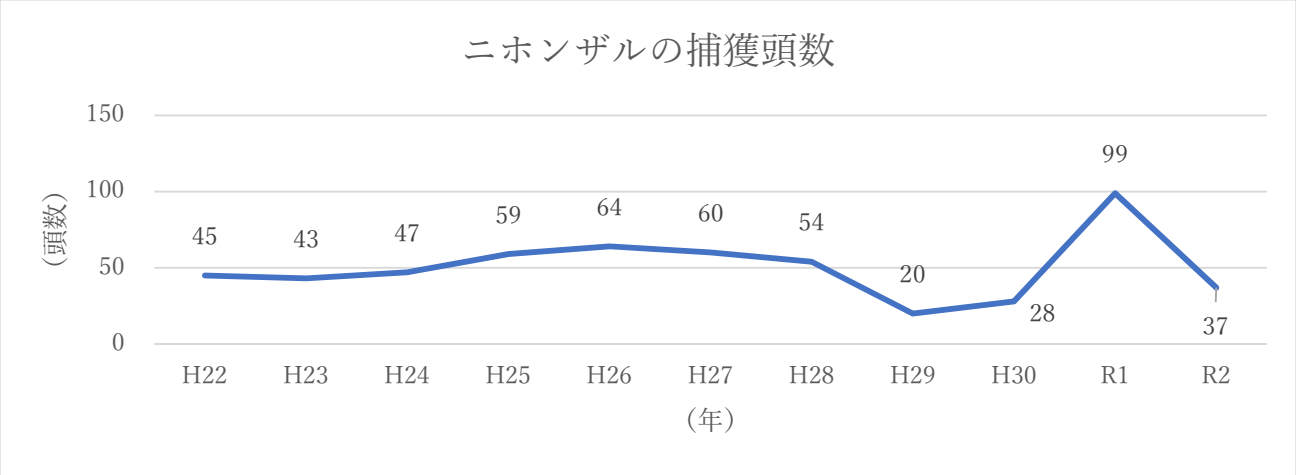
【イノシシ捕獲檻】

【ICT 大型捕獲檻】
監視カメラ付き、遠隔操作で見ながら檻を閉めることができる




イノシシの捕獲頭数
2,000
1,500
1,000
500
0
（頭数）
1,001
1,281
1,338
1,066
1,260
1,373
947
1,028
1,317
1,480
796
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28
H29
H30
R1
R2
（年）


ニホンジカの捕獲頭数
800
600
400
200
0
（頭数）
210
271
273
434
514
608
542
536
451
634
730
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28
H29
H30
R1
R2
（年）


ニホンザルの捕獲頭数
150
100
50
0
（頭数）
45
43
47
59
64
60
54
20
28
99
37
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28
H29
H30
R1
R2
（年）

基本方針Ⅱ 「しごと」の仕組みづくり

重点事項⑤　地域の特性を活かした複合経営等の推進

➢ 地域資源と他分野との組み合わせた新たな取組み

農村・森林空間×○○（調査・多様な人材・事業者など）
地場産業×○○（調査・多様な人材・地域活動・SDGｓ・ＥＳＧ投資など）

- 産業、歴史、自然、文化等地域の資源を改めて発掘し、その価値を磨き上げた上で、これまでにない他の分野と組み合わせて新たな価値を創出し、所得と雇用機会の確保を図ります。
- 中山間地域で活動する企業者等が情報交換を通じてビジネスプランを磨き上げることができるプラットフォームの運営など、多様な人材が地域資源を活用して新たな事業に取り組みやすい環境整備を推進します。
- SDGs への取組みの推進や、環境・社会などに配慮している企業が重視される ESG 投資が広がる中、自然環境にも恵まれ、多面的機能を有する中山間地域への企業の投資誘導等を図るため、地域おこし協力隊なども活用し、地域に関する情報発信を推進します。

➢ 多様な分野で農村･森林空間の活用

農村・森林空間×○○（健康・観光・教育など）

- 農林産物の生産だけではなく、ウオーキング、農泊、体験型プログラム、環境教育など、健康・観光・教育といった様々なサービスを提供する場所として農村・森林空間を活用し、所得向上や雇用機会の拡大を図ります。

クアオルト®健康ウオーキング
下山いやしの里山コース

山合いから流れる小川、季節折々に咲き乱れる花や野草など、日本の原風景が色濃く残り、心癒される風景が広がる里山・下山地区を歩くコースです。

近くには岡崎市に２つある酒蔵のひとつがあり、周辺一帯が自然豊かな自然環境である証といえます。

適度な傾斜と土の道で、目標とする運動強度に効率よく近づけることができるのに加え、郷愁を誘う里山を歩くことでメンタルヘルスへの良い効果も期待できます。

➢ 農林業等の担い手確保

農村・森林空間×○○（福祉・ＩCT・都市部住民・仕事など）
地場産業×○○（多様な人材・ＩCT・都市部住民など）

- 農福連携や林福連携の取組みを進め、雇用機会の増加と担い手確保を図ります。
- 農林業において、ドローンや自動運転機械の導入など、先端技術を活用した省労力化により、担い手不足という課題の解消に取り組みます。
- 既存施設等を活用して農林業体験プログラムの実施やスタートアップガイドの作成などに取組み、担い手確保を図ります。
- 多様な人材が地域資源を活用して新たな事業に取り組みやすい環境を整備し、季節毎の労働需要等に応じて複数の事業へ従事するプラットフォームの運営などにより、雇用機会の拡大と所得の確保を図ります。

➢ 新しい技術の活用

農村・森林空間×○○（ＩCT・仕事など）
地域住民×○○（ＩCT・仕事など）

- ドローンを活用した物流促進や農林業における作業の自動化など、これまでにない中山間地域での暮らしのあり方について検討します。

【ドローンを用いたほ場調査】
市の取組みにおいても、ドローン等を用いた手法により、事務効率の向上を図ります

➢ 地域商社の活用

農村・森林空間×○○（仕事・都市部住民など）
地場産業×○○（サービス産業・都市部住民など）

- 市が出資して令和４年２月に設立した地域商社（株式会社もりまち）において、主に林業の６次産業化を推進するとともに、森林空間を活用した森林サービス産業などを始めとする地域資源を活かした事業を推進し、地域の産業振興、雇用機会の拡大、所得向上を図ります。

重点事項⑥　地域経済循環の拡大

➢ 地元産品のブランド化、6次産業化、地消地産の推進

地場産業×○○（魅力・高付加価値化・仕事など）

- 農林産物の加工、直売や観光農園、農家レストランの経営等の新規事業を立ち上げ、新たな付加価値を生み出す６次産業化を推進します。
- 地元産品の販売力を高めるため、既存品の見直しと磨き上げを図り、魅力を高めブランド化に取り組みます。
- 新商品の開発に取り組み、高付加価値化による所得向上を図ります。
- 農業者、観光事業者、飲食店等が連携し、需要に応じた地元産農林水産物が利用できる体制づくりを通じて、市外産から市内産に置き換える取組みを進めるとともに、農林水産物販売の拠点である直売所の設置や機能強化を支援し、地域内流通の拡充に取り組みます。
- 新型コロナウイルス感染症の教訓を踏まえ、不測の事態が発生しても影響を最小限に抑えるため、新たな生活様式に対応した農林水産物直売所づくり、消費者ニーズを踏まえた多様な栽培品目の導入やその出荷体制、新たな需要等状況に応じて転換可能又は確実な経営形態の導入、労働力の安定的な確保等の危機管理体制づくりを推進します。

➢ 多様な土地利用方策・仕組みの構築

耕作放棄地×○○（高収益作物・都市部住民など）

- 耕作放棄地について、高収益作物（漆、コウゾ、ミツマタ等）の導入、都市部住民への貸し出し、動物の放牧など多様な活用を図るとともに、除草労力の軽減手法を検討します。
- 将来の地域状況も考慮して現在の土地利用の見直しを行い、地域活性化に寄与する活用法であれば、場所の条件によっては農地以外の利用方法も検討します。

➢ SDGs、カーボンニュートラルへの取組み

農村・森林空間×○○（SDGs、カーボンニュートラルなど）

- 耕作放棄地、森林、放置竹林等の有効活用、新商品開発等による農林業の活性化と、それに伴う雇用機会拡大等により、農林水産業を持続的に発展させ、その基盤である農地・森林・河川などの適切な維持管理を図ります。
- 農林水産業の活性化、新産業の振興等により地域の経済成長を図り、住み続けられる地域づくりに取り組みます。
- 耕作放棄地を活用した植林の推進、森林の適切な維持管理、木材製品の開発と利用促進、地域資源を活かしたクリーンエネルギーの導入などに取り組みます。
- SDGs の達成に向けた取組事例を普及させることにより、環境と調和した活動に取り組む団体や企業等との連携の強化を図ります。

➢ 岡崎漆プロジェクトの推進

耕作放棄地×○○（漆・新産業・公民連携・SDGs、カーボンニュートラルなど）

- 産官学で連携し、今後、文化財修復等で需要増加が見込まれる漆の栽培を進め、岡崎漆のブランド化を目指します。
- 樹液を活用し、バイオプラスチックなどの新製品開発にも取り組み、新産業の振興や雇用の促進を図ります。
- 植栽地として耕作放棄地を有効活用していくことで、カーボンニュートラルへの貢献、農地の多面的機能発揮を図ります。

【漆の苗】
種子から発芽後、農業支援センター温室において育成

【耕作放棄地への植樹】
令和３年 11 月 18 日、岡崎漆プロジェクト発足

➢ 地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入

再生可能エネルギーの活用
農村・森林空間×○○（太陽光・木・水など）

- 自然環境や景観に配慮した上で、農林水産業と調和した再生可能エネルギーの導入、活用を推進します。

重点事項⑦　新たなライフスタイルの推進

➢ テレワーク、ワーケーションの推進

農村・森林空間×○○（事業者・都市部住民・ＩＣＴなど）

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより、テレワークやワーケーションなど、新しい働き方に対する都市部住民の中山間地域への関心が高まっていることから、移住・定住にもつなげられるような、地域の特性を活かしたテレワークやワーケーションの実証実験等を行い、その検証結果を民間事業者などと共有することで、推進を図ります。
・ワークライフバランスの実現に資するテレワークやワーケーションのあり方について研究を行い、地域での実現を図ります。

➢ デュアルライフ（２地域居住）、半農半 X、半林半 X の推進

農村・森林空間×○○（都市部住民・仕事など）
地場産業×○○（都市部住民など）

・農地付き空き家制度を活用し「農のあるライフスタイル」（Farmer's Life IN OKAZAKI）、副業・兼業などの多様なライフスタイルを実現するための、農林業を行いながら、自分のやりたい仕事も行う働き方「半農半Ｘ」「半林半Ｘ」や、都市部と中山間地域の両方に拠点をもち、行き来しながら仕事や生活を楽しむ「デュアルライフ（二地域居住）」を実践する方等を増加させるための方策や、本格的な農林業に限らない多様な関わりへの支援体制のあり方を検討します。

基本方針Ⅲ 「交流」の仕組みづくり

重点事項⑧　関係人口の創出・拡大、地域を支える体制及び人材づくり

➢ **きっかけづくり**

農村・森林空間×○○（都市部住民・事業者など）

・観光、体験プログラム、農泊、ふるさと納税など、様々なきっかけを通じて地域への関心や関わりを持つ交流人口を創出し、その関心や関わりを段階的に深め、地域活動への参画や就業等に効果的につなげて、関係人口の創出・拡大を図る仕組みづくりに取り組みます。
・農林業の作業支援等のボランティア活動や企業のＣＳＲ活動を活発化させるためのマッチングシステムを構築し、都市部住民や企業が地域活動に参加しやすくします。

【自然薯手堀り体験】

【鮎つかみイベント（例年８月）】

【ホタル飛翔】

➢ **中間支援組織の形成**

地域住民×○○（地域活動・団体活動・都市部住民・事業者など

・行政と地域の間に立って、移住、地域での起業、NPO 等の活動等の連携を支援するためのプラットフォームを構築し、中間支援組織の形成に取り組みます。

➢ **地域おこし協力隊等、地域内で活動する多様な人材の確保及び育成**

地域住民×○○（都市部住民・地域活動など）

・地域が抱える諸問題の解決を図るため、地域外からの視点で地域活性化に取り組む地域おこし協力隊や地域活性化起業人等の人材の活用、地域の実情に詳しく集落対策のノウハウも有した集落支援員の確保や育成などに取り組みます。

➢ **地域運営組織・地域づくり事業体（RMO　Region Management Organization）の形成**

地域住民×○○（都市部住民・地域活動など）

・集落の機能を補完して、地域資源（農地・水路・山林等）の保全・活用や買い物・子育て支援等地域コミュニティの課題解決に取り組む地域づくり団体の形成に取り組みます。

重点事項⑨　魅力の向上・発信

➢ 自然体験、アウトドア活動、レクリエーション、健康づくりの場としての魅力向上

農村・森林空間×○○（都市部住民など）
遊休施設×○○（地域活動・都市部住民・事業者など）

- 地域の魅力であり、来訪者の大きな目的の１つである自然環境を活かした体験やアウトドア活動などについて、多様なニーズに応えるプログラム開発、施設整備などに取り組みます。
- 都市部住民を呼び込むことにより、関係人口の創出・拡大を図ります。

➢ 日常生活における、地域ならではの魅力発見

農村・森林空間×○○（地域活動・都市部住民・事業者など）

- イベントなどの特別なことだけではなく、四季の移り変わりや棚田などの風景など、日常生活の中の魅力を改めて発見し、都市部住民の地域への関心を高めます。

➢ 地域の魅力発信

農村・森林空間×○○（地域活動・都市部住民・事業者など）

- 多くの方に地域の魅力を知っていただくために、SNS や都市部でのイベントなどを利用するとともに、より効果的な情報発信方法を検討し、地域おこし協力隊などを活用して、最新の情報をより多く提供できるように取り組みます。
- 既存施設を活用し、地域の自然、文化、歴史などに関する学びのきっかけづくりとなるイベント等を開催し、都市部住民の関心を高めることにより関係人口創出につなげ、維持・保全を図ります。
- 棚田地域振興法に基づく指定棚田地域への指定申請に対する支援を行い、棚田を核とした振興を図り、棚田の魅力を積極的に PR します。
- 古民家等を活用した滞在施設、農林漁業・農山漁村体験施設等を整備し、観光ビジネスとして持続的に活動できる体制の確立、農山漁村に賦存する地域資源を活用した食事や体験・交流プログラムの充実、美しい景観等を観光コンテンツとして磨き上げる取組み、情報発信等の取組みを推進します。

【千万町棚田】

【地域おこし協力隊による魅力発信】

重点事項⑩　多面的機能に関する市民理解の促進

➢ 地域の多面的･公益的機能の重要性に関する普及啓発

農村・森林空間×○○（都市部住民・地域活動・団体活動・教育など）

- 農林水産業などに関する体験プログラムを開発・実施し、農地・森林等が多面的機能を有していること及びその保全の必要性の啓発に取り組みます。
- 農業には、食料その他の農林産物の供給機能以外に多面にわたる機能があることへの市民の皆さんの理解醸成等に向けた取組みの推進を図ります。
- 「雨水を一時的に貯めて洪水を防ぐ」、「作物や水田に貯められた水が土砂の流出を防ぐ」、「日々の作業を通じて土砂崩れを防ぐ」といった農地がもつ防災機能への市民の皆さんの認知度を高め、農地を保全・活用する意義への理解醸成を促進し、持続可能な循環型都市づくりを目指します。
- 内水面資源の保全を行うため、鮎の放流や本来あるべき漁場の維持管理等の取組みを行うとともに、内水面資源に対する市民の皆さんの理解促進を図ります。
- 森林には、生物多様性保全機能、地球環境保全機能、土砂災害防止機能/土壌保全機能、水源涵養機能、快適環境形成機能、保健・レクリエーション機能、文化機能、物質生産機能といった多面にわたる機能の発揮を通じて、我が国の国民生活及び国民経済を支えている。これらの機能を持続的に発揮させるためには、植栽、保育、間伐等によって健全な森林を積極的に造成し、育成する森林整備の必要性についての市民の皆さんの理解醸成等に向けた取組みの推進を図ります。
- 野生生物の生息環境の保全に向けた里山づくりを進めるため、棚田の保全、里山林の育成や天然広葉樹林の保全を行うとともに、貴重な自然体験を学ぶ場として活用するなど、地域に残された貴重な生物多様性の保全・活用を行う施策を推進します。
- 都市との近接性を産業や交流などの活性化につなげ、自然、伝統、文化等の山村が持つ個性を活かし、美しく豊かで誇りの持てる魅力と活力ある地域の創造を目指します。

3 地区別計画

中山間地域は、各地区でそれぞれ特色があり、有している地域資源も抱えている課題も一様ではありません。

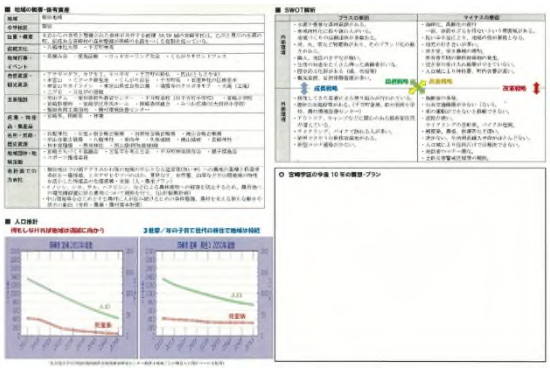
地区の抱える課題を解決するためには、住民一人ひとりが、地区の現状をよく理解し、解決方法や体制づくりについて、各地区でしっかり議論することが不可欠です。

こうした住民同士の議論から合意形成に至るには、相応の時間がかかりますが、大変重要なプロセスです。これをしっかりと丁寧に行うことで、実践活動への移行がしやすくなります。

➢ 地域住民の機運醸成・合意形成の推進

- 地域づくりの開始に向けた住民議論を喚起するため、客観的な統計データや他地域の取組状況などのツールを提供し、ワークショップ等開催の支援を行います。

■地区別計画策定にあたり使用するワークシート例



■参加者募集案内例

➢ 人材の育成・確保

- 地域課題の解決に向け、「我がごと」「自分ごと」として積極的に行動する「キーパーソン」が必要であることから、地域における人材の育成や確保を図るための研修等を開催します。
- 人口減少が進む地域内の人材だけでなく、地域おこし協力隊制度の活用等外部からの人材確保を推進します。

➢ 対象地区

- 本計画が対象となる生平学区、秦梨学区、常磐南学区、常磐東学区、常磐学区、恵田学区、奥殿学区、豊富学区、夏山学区、宮崎学区、形埜学区、下山学区の 12 学区（ただし市街化区域は除く）を対象地域とします。
- 各地区の現状等を考慮して、学区内の町別や複数の学区合同での地区別計画も可能とし、作成した地区別計画は、本計画の下位計画として位置付けます。
- 地域管理構想図を策定した場合は、市の管理構想図の一部として編入し、農地については、人・農地プランの地図として取り扱います。
- 作成した計画については、地域の状況を鑑みながら、適宜改定していくものとします。

４　小さな拠点の形成

近年、地域の再生を目指す新たな取組として、全国的に暮らしの安心と希望をつなぐ「小さな拠点」づくりが始まっており、成功事例も多く報告されています。

「小さな拠点」とは、小学校区など、複数の集落が散在する地域（集落生活圏）において、商店や診療所などの日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場所を確保し、周辺集落とネットワークで結ぶことで、暮らし続けられる環境を維持するとともに、都市部住民も含めた人々が集い、交流する機会が広がることで交流人口の創出・拡大から移住・定住に繋がり、集落地域の再生を目指す取組みです。

各施設をそれぞれ拠点として活用を進めるとともに、施設ごとに繋がりを持たせることで、面的に地域活性化を図っていきます。

住民や地域のメリットとしては、生活サービス水準の維持や住民同士の交流の活発化とともに、その地域の住民に仕事を提供する雇用創出効果や、所得向上によって地域の経済を活性化させる効果があります。

また、行政におけるメリットとしては、人口減少や高齢化によって多様化する課題を解決するための行政サービスコストの増大や予算・職員が削減される厳しい経営環境において、地域との協働によって住民の活躍を力にしていただくことで地域のニーズに応じた政策を展開しやすくなり、将来的に安定したサービスを持続的に提供することにつながります。

これらの取組みを推進する上では、地域が必要とすることや取り組みたいことを住民の意見をまとめて計画にし、その実施方法や体制について検討を進めながら、既存の施設などを有効に活用していくことが重要になります。住民の意向に基づく機能を有する拠点施設として、地域資源や魅力を活かして民間からの投資誘導を図るなどの工夫もしながら、公民連携による持続的な施策として、戦略的かつ分野横断的に取り組み、持続可能な魅力ある地域を作り上げることを目的として、中山間地域に点在する遊休施設等を活用していきます。

図：「小さな拠点」づくりの取組イメージ

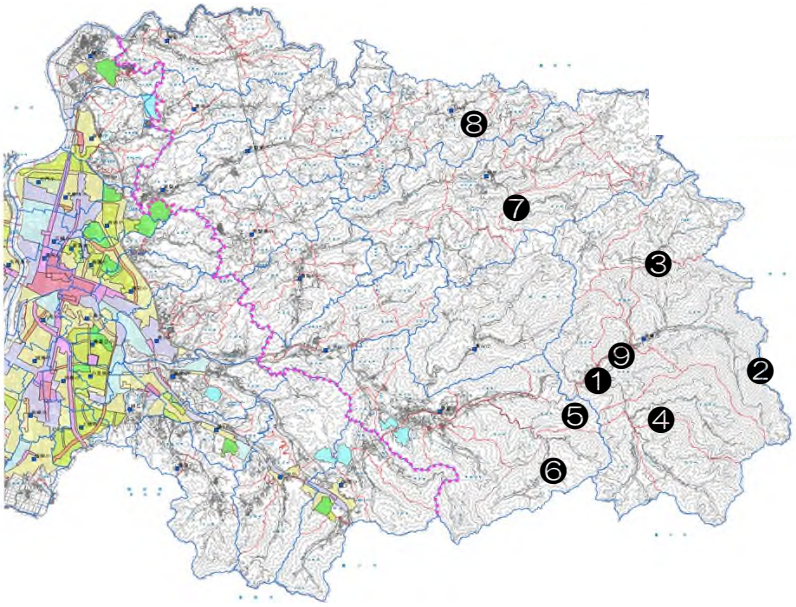
住み慣れた地域で暮らし続けるために～地域生活を支える「小さな拠点」づくりの手引き～（内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局　内閣府地方創生推進室）

① 対象施設

令和元年度に実施した「岡崎市農業振興計画策定業務　基礎調査業務」や令和３年度に実施した住民アンケートの結果に基づき、以下の９施設を候補として、地域活性化の拠点としての活用を検討しました。

注）旧ＪＡ下山支店・宮崎支店については、地域に存在し、拠点となり得る遊休施設として、地域の意見も含めて検討したものであり、現在、市の所有施設ではありません。

❶ 農村環境改善センター
❷ くらがり渓谷
❸ 千万町倉庫
❹ 旧大雨河小学校
❺ 岡崎市わんパーク
❻ 岡崎市ホタル学校
❼ 日近の里
❽ 旧ＪＡ下山支店
❾ 旧ＪＡ宮崎支店



② 施設の現状及び想定活用方法

❶ 農村環境改善センター

該当地域	宮崎学区
所在地	〒444-3611　岡崎市宮崎町字堂庭９番地５
会館・営業時間	午前９時～午後 10 時
建築・開設年	昭和 63 年３月 農村総合整備モデル事業により、当時の額田町により設置
構造・階数	鉄筋コンクリート造・２階（昭和 63 年築）
施設機能	多目的ホール・研修室・和室
現在の使用方法・提供サービス	・地元団体の活動や会議等での使用 ・地域のイベント開催などでの使用 ※指定管理者による管理（令和３年度～令和７年度）
今後の方針（農業支援施設・農村振興施設個別施設計画）	・長寿命化工事として、屋根及び外壁工事を予定するものとして整理するが、以下について検討するものとする。 ・施設の設置目的である「農業経営及び農村生活の改善合理化」の趣旨に反しない範囲の下、農林業の６次産業化の推進など、新たな地域ニーズにマッチした用途・機能の再整備を計画化していく。
想定される活用方法	・森林、林業、木材に関する紹介・体験施設（体験型木材ショールーム） ・サイクリングで訪れた人の休憩場所（自転車版道の駅） ・物販（地元産品含む） ・地域コミュニティの拠点

【外観】

【研修室】

【和室】

【多目的ホール】

❷ くらがり渓谷

該当地域	宮崎学区
所在地	〒444-3601　岡崎市石原町字牧原日影 2-2
会館・営業時間	施設により異なる
建築・開設年	昭和 38 年
構造・階数	軽量鉄骨・1 階（総合案内所） 木造・1 階（宿泊所ほか）
施設機能	・キャンプ場（テントサイト、ミニログハウス、デイキャンプ等） ・くらがりキャンプセンター、くらがり山荘 ・山の家 ・くらがり八景
現在の使用方法・提供サービス	・アウトドア活動 　キャンプ、手ぶらバーベキュー、マス釣り・マスつかみ ・くらがり渓谷自然観察会（主催：西三河自然観察会）
想定される活用方法	・恵まれた自然を活かしたアウトドア活動の推進 　デイキャンプ、ソロキャンプなど多様なニーズに応える施設整備 　子ども連れや女性でも利用しやすい設備を整備し、利便性向上 ・イベント開催

❸ 千万町倉庫　（令和４年度～　千万町楽校）

該当地域	宮崎学区
所在地	〒444-3432 岡崎市千万町町字宮西８
会館・営業時間	
建築・開設年	旧千万町小学校 1874 年（明治７年）～2010 年（平成 22 年）
構造・階数	鉄筋コンクリート・２階（昭和 58 年築）
施設機能	倉庫
現在の使用方法・提供サービス	・地域住民のコミュニティセンター ・避難所 ・ふれあいと交流の場 都市部住民との交流イベント開催 地域内住民向けイベント開催 ・公共利用（サイクリスト等のトイレ休憩所）
想定される活用方法	・都市部との交流の場（山村生活・田舎暮らし体験） ・地元品を利用した食事の提供、物販等 ・地域コミュニティの拠点

❹ 旧大雨河小学校　（令和４年度～　みつわ広場）

該当地域	宮崎学区
所在地	〒444-3602 岡崎市東河原町字黒石１７
会館・営業時間	要相談（撮影可能時間）
建築・開設年	旧大雨河小学校 1874 年（明治７年）～2010 年（平成 22 年）
構造・階数	木造・１階（昭和 33 年築） 鉄筋コンクリート・２階（昭和 56 年築） 屋内運動場（木造・昭和 33 年築） プール専用付属室（木造・昭和 57 年） 体育倉庫（軽量鉄骨・昭和 56 年）
施設機能	倉庫・事務所・運動場（広場）
現在の使用方法・提供サービス	・地元住民活動 地域住民団体によるイベント開催、環境維持・整備等 ・撮影 岡崎フィルムコミッションのロケ地として動画撮影用に開放 ・指定避難場所
想定される活用方法	・森林、河川、農地を活かした体験の拠点 ・林業に関する展示紹介施設 ・都市部住民との交流の場（キャンプ、森のようちえん等のイベント） ・地域コミュニティの拠点

❺ 岡崎市わんパーク

該当地域	豊富学区
所在地	〒444-3617　岡崎市淡渕町字堂面 125 番地
会館・営業時間	利用時間…3 月～10 月／9：00～17：00、11 月～2 月／9:00～16:00 定休日…火曜日、12 月 28 日～1 月 4 日
建築・開設年	2010 年（平成 22 年）10 月 1 日
構造・階数	約 4.6 ヘクタール（借地） わんぱくハウス・四阿・屋外トイレ：木造平屋
施設機能	・わんぱくハウス（案内、展示、休憩場所、トイレ、更衣室、授乳室） ・芝生広場、冒険の森（木製遊具）、昆虫の森、四阿、屋外トイレ ・実りの森（どろんこプール、池、噴水）
現在の使用方法・提供サービス	・子ども（未就学児から小学校低学年程度）が自然を感じ、伸び伸びと遊ぶ ・自然（動植物、土、星など）を利用した子ども向け体験プログラム実施 例）落ち葉プールにダイブ！、ヨモギを摘んでおもちつき どろんこ初体験、ペルセウス座流星群ウォッチング等 ・市内公立保育園・幼稚園対象の環境教育プログラム実施
想定される活用方法	・キャンプ、ワーケーション、テレワークの実施など ・子どもの環境教育、遊び場 ・地域資源を活かした物販 ・移住、定住に関する相談窓口機能 ・農林業体験イベントの拠点

【わんぱくハウス(管理棟)】

【芝生広場】

❻ 岡崎市ホタル学校

該当地域	豊富学区
所在地	〒444-3614 岡崎市鳥川町字小デノ沢 5-1
会館・営業時間	9:00～17:00（最終入館は 16:30）6 月は 21 時まで 定休日…月曜日、12 月 28 日～1 月 4 日 （6 月は休みなし・月曜日も午後から 21 時まで開館）
建築・開設年	旧鳥川小学校 1880 年（明治 13 年）～2010 年（平成 22 年） 開設年：平成 24 年4月1日
構造・階数	鉄筋コンクリート・2階（昭和 57 年築）
施設機能	・展示室　5か所（ホタル教室 1～3、ホタルの里、交流室） ・飼育室 ・鳥川小学校記念室 ・多目的ルーム ・サポーター室
現在の使用方法・提供サービス	・常設展示（ホタルや周辺自然環境の解説） ・小学生向けの環境教室（体験学習）実施 ・環境啓発イベント開催（ホタルまつり、山歩き、幼虫放流式） ・山歩き活動の拠点 ・売店機能（ガラス工芸品の販売） ・指定避難所
想定される活用方法	・自然観察センター、環境学習実施 ・山歩きの拠点 ・ワーケーションの実施

❼ 日近の里

該当地域	形埜学区
所在地	〒444-3435　岡崎市桜形町般興
施設機能	・公衆便所 日近城址便所：平成８年築・環境部所管・用地は使用貸借契約 人材育成の森衛生施設(桜形)：平成 15 年築・森林課所管 用地は賃貸借契約 ・駐車場：環境部所管・土地賃貸借契約
現在の使用方法・提供サービス	・鯉のぼりイベント：地元主催、市（環境部）が広報実施
想定される活用方法	・川遊びや四季の景観など自然を楽しむ場所 地元産品を活かした食事などの提供など、来訪者へのサービス向上 ・城跡など文化財を活かして来訪者増加を図る。

❽ 旧ＪＡ下山支店　（令和４年度～　オクオカ活性化拠点下山）

該当地域	下山学区
所在地	〒444-3442　岡崎市保久町字中村 131
現在の使用方法・提供サービス	・ＡＴＭ、移動購買車・移動金融車による巡回サービス（週１回） ・クアオルトウオーキング集合場所
想定される活用方法	・市民農園、体験農園休憩場所、農機具等貸出 ・農業者と来訪者（都市部住民）との交流場所 ・地元産物直売所　・食料品供給拠点 ・地域おこし協力隊、集落支援員の活動スペース ・中間支援組織・地域運営組織の創出→事務所 ・地域住民の拠点（バス待合、サロン、学生自習室、カフェなど） ・地域活動の拠点（住民相互の助け合い、都市住民交流など） ・移住、定住に関する活動（移住定住相談・案内） ・その他地域活性化に係る連携施策の展開 ・クアオルト健康ウオーキング受付場所、休憩場所、トイレ、駐車場 ・地域保健室、体操 ・会議、ミーティング、テレワーク場所 ・市役所職員によるワーケーションモデル サテライトオフィス ・キャンプ等野外活動拠点

❾ 旧ＪＡ宮崎支店

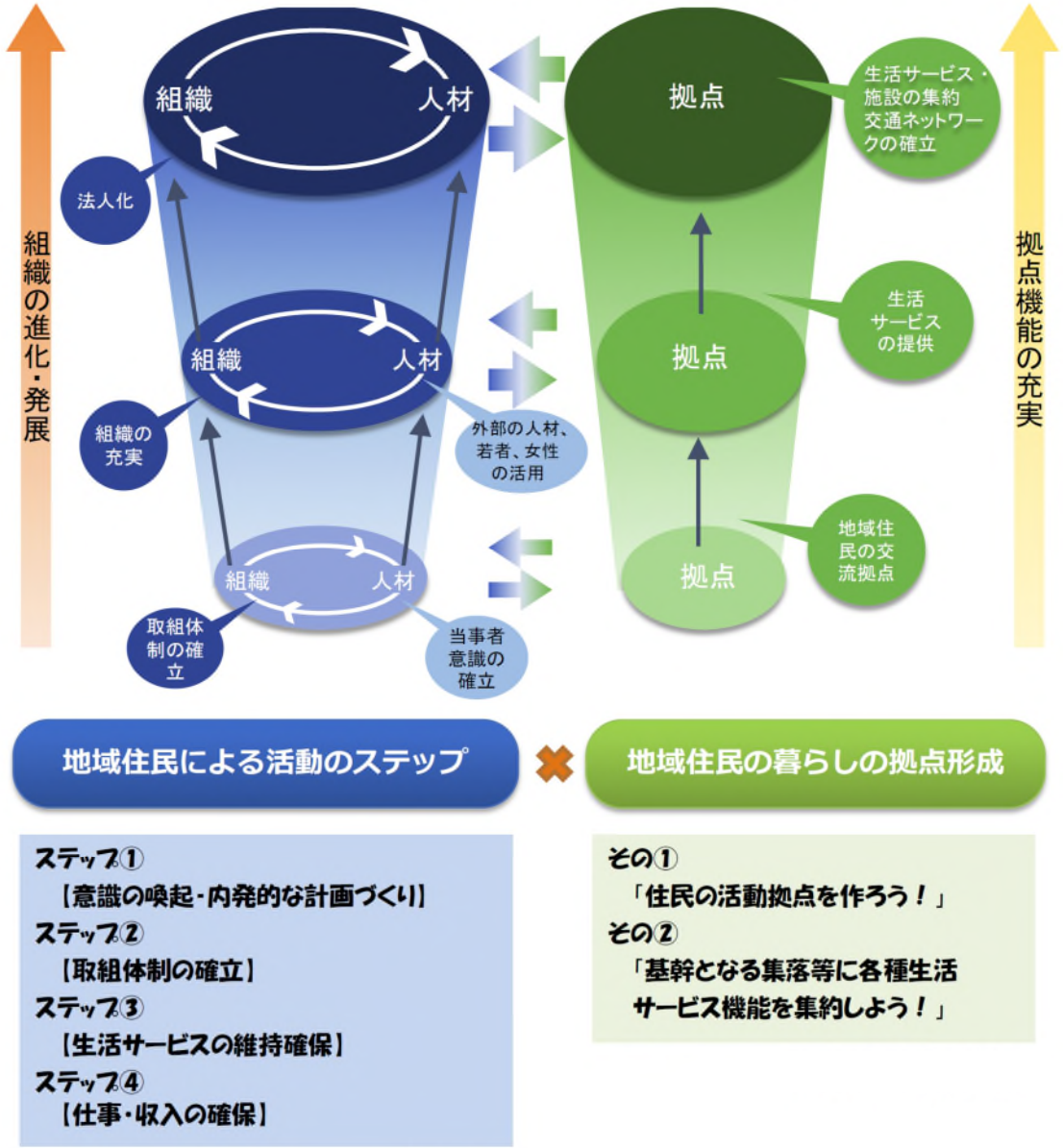
該当地域	宮崎学区
所在地	〒444-3611　岡崎市宮崎町字亀穴 30-1
現在の使用方法・提供サービス	・ＡＴＭ ・移動販売
想定される活用方法	・食料品、日用品等の販売継続 ・地元特産品の販売

③　今後の展開

国等の補助金・交付金を活用しながら、小さな拠点の形成を推進します。

なお、本計画の下位計画の位置づけとする予定の各学区別の「地区別計画」を策定する際に行う話し合いに合わせて、具体的な活用・運営方法について住民が主体的に決めていくよう支援します。

図：「小さな拠点」づくりを進めるにあたってのポイント



住み慣れた地域で暮らし続けるために
～地域生活を支える「小さな拠点」づくりの手引き～
（内閣府まち・ひと・しごと創生本部事務局　内閣府地方創生推進室）

5　成果指標

計画推進にあたり、その成果を測る指標として、以下を設定します。

項目	現況	令和 12 年度
移住相談者数（年間平均）	0	5
転入世帯数	428 世帯	440 世帯
観光レクリエーション利用者数	249,312 人	270,000 人
関係人口マッチング件数	0	10
テレワーク等利用者数	0	450 人
荒廃農地面積	405.19ha	365ha
多面的機能の認知度	46.8%	60%
地域資源を活かした体験・交流プログラム数	7	20

----------＜参考：設定根拠＞----------

※転入世帯数　岡崎市　2020 年度実績

※観光レクリエーション利用者数

- 愛知県観光レクリエーション利用者統計 2020 年
- 岡崎市わんパーク、岡崎市ホタル学校　2020 年度実績から

※荒廃農地面積

岡崎市資料から 12 学区を抜粋・集計

※多面的機能の認知度

岡崎市農業振興ビジョン 2030　多面的機能に関する理解から

【参考】用語集

ページ	用語	解説
1	テレワーク	Tele（離れた）とWork（働く）を組み合わせた造語で、情報通信技術（ICT＝Information and Communication Technology）を活用した時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のこと
1	CSR活動	「Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）」の略で、企業が倫理的観点から事業活動を通じて、自主的に社会に貢献する責任や行動のこと
1	カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることであり、地球温暖化の防止に向けた取組みのこと
7	ワーケーション	「Work（ワーク）」と「Vacation（バケーション）」を組み合わせた造語で、リゾート地や地方等の普段の職場とは異なる場所で働きながら休暇取得等を行う仕組み
45	イノベーション	「新機軸」や「革新」を意味し、新たな仕組みや習慣を取り入れて、革新的な価値を創造すること 地域づくりに当たっては、全く新しいものを外部から持ち込むのではなく、活用可能な地域の資源を発掘し、磨き上げ、さらにこれまでにない他分野と組み合わせる取組み「地域資源×〇〇」を進めることで、魅力ある持続可能な地域を作り上げることを理念としている
45	地消地産	地産地消の考え方に加えて、「地域で消費する」モノやサービスを、できるだけ「地域で生産」しようという考え方に基づき、市内で消費する農産物について、市外産から市内産へ置き換えを推進する取組みのこと
45	ステークホルダー	企業の活動に対して、直接的・間接的な利害関係を有するグループまたは個人
48	６次産業化	農林漁業者（１次産業）が、農産物などの生産物を加工（２次産業）して元々持っている価値をさらに高めて販売・提供（３次産業）し、それらを掛け合わせること（１次×２次×３次＝６次）により、農林漁業者の所得・収入を向上していくこと
50	地域管理構想図	都道府県・市町村・地域（集落等）の各レベルで、人口や土地の管理状況等についての現状把握・将来予測を行い、目指すべき将来像と土地の管理の在り方を示す管理構想を策定する動きが国土交通省においてあり、これを受けて市町村や地域において地図上に見える化して図に表示するもの
51	農地付き空き家制度	振興山村地域内で、条件を満たし、空き家に付随する農地を取得する場合は、農地の取得要件の下限面積要件が緩和されて、取得しやすくなる制度のこと
53	農業・農村の多面的機能	国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等、農村で農業生産活動が行われることにより生ずる、食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能のこと
53	森林の多面的機能	生物多様性の保全、土砂災害の防止、水源のかん養、保健休養の場の提供など、木材等の生産なども含めた多面にわたる機能のこと
56	ICT	「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略で、通信技術を活用したコミュニケーション（交流・事業活動・）全般のこと

ページ	用語	解説
56	小規模特認校制度	学校選択制の一つである特認校制を小規模校で実施するもので、特定の学校を「特認校」として指定し、少人数での教育の良さを生かした、きめ細やかな指導や特色ある教育を行うもの
60	ESG 投資	従来の財務情報だけでなく、環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）要素も考慮して行う投資のこと
60	プラットフォーム	サービスやシステム、ソフトウェアを提供・カスタマイズ・運営するために必要な「共通の土台（基盤）となる標準環境」のこと
60	農泊	農山漁村地域に宿泊し、滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のこと
61	農福連携・林福連携	障がい者等が農業分野・林業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組み
61	地域商社	地域の多くの関係者を巻き込み、農産物などの地域の資源をブランド化し、生産・加工から販売まで一貫してプロデュースし、地域内外に販売する組織 本市では、市が出資して令和４年２月に㈱もりまちが設立されている
62	クリーンエネルギー	二酸化炭素や窒素酸化物など、大気汚染・地球温暖化の原因となる物質を排出しない、あるいは排出が少ないエネルギーのこと
63	バイオプラスチック	土の中に捨てられても微生物によって分解される「生分解性プラスチック」と、再生可能なバイオマスを原料に合成される「バイオマスプラスチック」があり、いずれも、環境にやさしいと注目を受けているプラスチックのこと
63	再生可能エネルギー	石油や石炭、天然ガスといった有限な資源である化石エネルギーとは違い、太陽光や風力、地熱といった地球資源の一部など自然界に常に存在するエネルギーのことで、その大きな特徴は、「枯渇しない」「どこにでも存在する」「CO2 を排出しない（増加させない）」の３点
64	半農半Ｘ・半林半Ｘ	農業や林業に従事しつつ、個性や能力、趣味や特技などを社会に活かしながら、これらを組み合わせて生計も立てる暮らし方
65	関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉
65	地域活性化起業人	6 月以上３年以内の期間、継続して３大都市圏に所在する企業から受入自治体に派遣され、地方圏への人の流れを創出することを目指して、地域独自の魅力や価値の向上、地域経済の活性化、安心・安全につながる業務をする社員のこと（総務省による支援策）
65	地域運営組織(RMO)	地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成し、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織